

本試験ヲ行フ場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十條 豫備試験ニ合格シタル者ハ爾後引續キ行フ本試験ヲ三回マテ受クルコトヲ得

第十一條 受檢人歴史、地理及算術代數幾何ノ試験ニ合格セサルモ其ノ一部分ノ成績佳良ナルトキハ其ノ部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ヲ省キ其ノ他ノ部分ニ就キ試験ヲ行フ但シ證明書ノ效力ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

附則

第十三條 本令施行ノ際同一學校ニ於テ同一學科目ニ就キ三箇年以上引續キ現ニ教授ニ從事シ成績佳良ナル者ニ就テハ地方長官ノ稟申ニ依リ其ノ教授シタル學科目ニ關シ其ノ學校ト同種類ノ學校ノ教員トシテ特ニ無試験檢定ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ本令第四條第一項ニ準シ必要ナル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第十四條 明治三十二年文部省令第二十五號第一條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ハ本令第五條第一項第二號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 明治二十九年文部省令第十二號師範學校、中學校、高等女學校教員免許規則ニ依リ豫備試験ノ合格者及證明書ノ受領者ニ對シテハ本令第十條第十一條ヲ準用シ仍其ノ效力ヲ存續セシム

第一號書式(用紙美濃紙) 教員檢定願

消印 收入印紙

何學科 何學科

私師範學校(中學校)女子師範學校(高等女學校) 教員志願ニ候間前記ノ學科ニ就キ試験檢定(無試験檢定)相受度別紙履歴書並ニ醫師身監検査書相添へ此段相願候也

第二號書式(用紙美濃紙) 履歷書

學業 一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業 一年月日何々ニヨリ何免許狀ヲ受ク 一年月日何官職拜命成ハ何業ニ従事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等 一年月日何所ニ於テ何々ニ付キ何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク 右之通相違無之候也

第二號書式(用紙美濃紙記載方ハ別記身體) 身體検査書

- 一 體格
 - 一 身長
 - 一 體重
 - 一 胸圍
 - 一 中心視力
 - 一 色盲
 - 一 眼病
 - 一 聴力
 - 一 耳疾
 - 一 呼吸器
 - 一 神經系
 - 一 皮膚
 - 一 言語
- 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
右検査候處相違無之候也
年 月 日 検査

族籍 何 某
生年月 某

住所 何學校
學位者ハ何 某印

別記

身體検査書記載方心得

一 検査ノ表記及身長體重胸圍聴力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ

一 體格ノ強弱ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(體)ヲ以テ體重(體)ヲ除シタル商〇三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス

中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(體)ヲ以テ體重(體)ヲ除シタル商〇二六以上且無病ノ者ヲ指ス

弱弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(體)ヲ以テ體重(體)ヲ除シタル商〇二六未満ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲扁平胸、狭小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一 中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ〇以下ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ

一 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ

一 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

一 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ

一 皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ

一 言語ハ明瞭、咬、喉嚨等ヲ記載スヘシ

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ會患、肺病、心臓病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

○農商務省令第十號

明治三十二年農商務省令第二十七號不要存置國有林野賣拂規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年六月一日

農商務大臣曾禰克助

第三條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

賣拂ハントスル林野ニ付キ下戻ノ申請又ハ社寺境内編入ノ出願ヲ爲シタル者ハ前項ノ規定ニ依リ揭示シタル差出期間後ト雖其ノ不許可ノ處分ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ於テ特賣ヲ出願スルコトヲ得

第十一條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十一條ノ二 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ林野整理支局長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納メサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二當タル金額ヲ徴收スヘシ

第十一條ノ三 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ契約保證金ヲ納メタルモ林野整理支局長ノ指定シタル期間内ニ契約ヲ結ハサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ契約保證金ハ之ヲ還付セス

公債證書ヲ以テ契約保證金ヲ納メタル者カ更ニ林野整理支局長ノ指定シタル期間内ニ保證金ト同額ノ現金ヲ差出シ公債證書ノ返還ヲ請求セサルトキハ其ノ公債證書ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金ニ充當シ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徴スヘシ

○農商務省令第十一號

明治三十年農商務省令第十一號度量衡法施行規則中左ノ通改正シ明治三十三年勅令第二百四十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年六月一日

農商務大臣曾禰荒助

第十二條第一項但書中鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ノ下ニ又ハ蝕ノ三字ヲ加フ

○農商務省令第十二號

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十三年六月九日

農商務大臣曾禰荒助

第一條 北海道ニ於テ郡農會ヲ設立スルニハ其區域内ニ於ケル町村總數ノ三分ノ一以上ノ町村ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

第二條 北海道農會ヲ設立スルニハ北海道ニ於ケル郡總數ノ三分ノ一以上ノ郡ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

○農商務省令第十三號

明治三十二年農商務省令第二十七號不要存置國有林野賣拂規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年六月十一日

農商務大臣曾禰荒助

第十一條ヲ左ノ如ク改ム

賣拂ハントスル林野ニ付前條第一項ニ掲ケタル者出願セス又ハ其ノ者ニ特賣ヲ許可セサル場合ニ於テ其ノ林野ニ對シ調査價格以上ノ出願競合スルトキハ左ノ順位ニ依リテ特賣ヲ爲スヘシ

一 國有林野法施行規則第七條第三號乃至第七號ノ出願及林野ノ屬スル市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスル出願競合スルトキハ出願價格ノ最高者

二 前號ニ掲ケタル出願ナキカ又ハ其ノ出願者ニ特賣ヲ許可セサル場合ニ於テ林野ノ屬セサル市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスル出願及國有林野法第八條第五號ノ出願競合スルトキハ出願價格ノ最高者

〔參照〕

農商務省令第二十七號不要存置國有林野賣拂規則(明治三十二年八月三日抄錄)

第十一條 賣拂ハントスル林野ニ付前條第一項ニ掲ケタル者出願セス又ハ其ノ者ニ特賣ヲ許可セサル場合ニ於テ其ノ林野ニ對スル出願競合スルトキハ調査價格以上ニ於ケル出願代金ノ額ニ依リテ特賣ノ順位ヲ定ム

○農商務省令第十四號

耕地整理法ニ依リ整理施行ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ工事ニ著手スル前左ノ事項ヲ所轄稅

務管理局長ニ申告スヘシ爾後其事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一 整理地區ノ屬スル郡市町村及ヒ土地各筆ノ字番號ハ段別
- 二 整理施行又ハ設計變更認可ノ年月日
- 三 工事着手及ヒ竣成ノ豫定時期

明治三十三年六月十四日

農商務大臣曾禰荒助

○遞信省令第二十三號

明治三十年十一月 遞信省令第三十二號電話料ノ部第二項左表中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

遞信大臣子爵芳川顯正

區	從	至	額
東京	二五圓一	四	一圓四角
橫濱	九十五圓	一	一圓四角
名古屋	二五圓二五圓	四	一圓四角
大阪	二五圓二五圓	四	一圓四角
京都	二五圓二五圓	四	一圓四角
神戶	二五圓二五圓	四	一圓四角
津	二五圓二五圓	四	一圓四角
奈良	二五圓二五圓	四	一圓四角
和歌山	二五圓二五圓	四	一圓四角
三重	二五圓二五圓	四	一圓四角
滋賀	二五圓二五圓	四	一圓四角
岐阜	二五圓二五圓	四	一圓四角
富山	二五圓二五圓	四	一圓四角
石川	二五圓二五圓	四	一圓四角
福井	二五圓二五圓	四	一圓四角
山梨	二五圓二五圓	四	一圓四角
長野	二五圓二五圓	四	一圓四角
新潟	二五圓二五圓	四	一圓四角
秋田	二五圓二五圓	四	一圓四角
山形	二五圓二五圓	四	一圓四角
福島	二五圓二五圓	四	一圓四角
茨城	二五圓二五圓	四	一圓四角
栃木	二五圓二五圓	四	一圓四角
群馬	二五圓二五圓	四	一圓四角
埼玉	二五圓二五圓	四	一圓四角
千葉	二五圓二五圓	四	一圓四角
東京	二五圓一	四	一圓四角

○遞信省令第二十四號

明治三十年十一月 遞信省令第三十二號電話料ノ部第二項ニ左ノ一表ヲ追加ス

明治三十三年六月九日

遞信大臣子爵芳川顯正

從	至	額
赤間	四	二五圓
岡	四	二五圓

○遞信省令第二十五號

明治三十三年六月 遞信省令第二十六號中岩内支廳長(岩内郡岩内)ヲ「岩内郡岩内町長」ニ、宗谷郡稚

内村戸長ヲ宗谷郡稚内村長ニ、室蘭支廳長(室蘭郡室蘭)ヲ「室蘭郡室蘭町長」ニ、根室支廳長(根室

郡根室)ヲ「根室郡根室町長」ニ改ム

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

明治三十三年六月十五日

遞信大臣子爵芳川顯正

〔參照〕

明治三十二年六月十日遞信省令第二十六號八船員法第七十九條ノ規定ニ依リ市町村長戸長及之ニ準スヘキ者ヲシテ管海官

○遞信省令第二十六號

明治三十年十一月 遞信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ項中門司ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十三年六月二十三日

遞信大臣子爵芳川顯正

熊 本 一 金 五 圓 一 金 四 十八 圓

○内務省令第三十六號
治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十三年七月二日

内務大臣 侯爵 西郷從道

炭坑稼人川崎稼人石炭仲仕稼人土方稼人ハ福岡縣門司市、小倉市及遠賀郡鞍手郡嘉穂郡田川郡企救郡ニ於テ戎器爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帯スルハ此ノ限リニ在ラス

○内務省令第三十七號

氷雪營業取締規則左ノ通定ム

内務大臣 侯爵 西郷從道

明治三十三年七月三日

氷雪營業取締規則

第一條 本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ

氷雪營業者ト稱スルハ氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其ノ卸賣若ハ請買ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 氷雪營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ請買營業ヲ爲サムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備並ニ材料ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第三條 氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス

氷雪融解水ノ百万分中格魯兒量ハ一分硝酸量ハ一分安母尼亞量ハ〇・〇五分過滿俺酸加留謨消

費量ハ三分亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

第四條 氷雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル氷雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 飲食用ノ氷雪ヲ請買スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ハラズ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

- 一 氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ
- 二 第五條ノ營業者販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第八條 第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ氷雪ノ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

○大藏省令第二十五號

專賣局及ヒ各專賣支局ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

明治三十三年七月四日

大藏大臣伯耆松方正義

○大藏省令第二十六號

當分ノ内馬匹ノ輸出ヲ禁ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ輸出ノ目的ヲ以テ契約ヲ締結シタルモノニシテ本令施行ノ日ヨリ五日內ニ輸出スル者ニハ本令ヲ適用セス

明治三十三年七月五日

大藏大臣伯耆松方正義

○大藏省令第二十七號

明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十三年七月十二日

大藏大臣伯耆松方正義

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質入ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登録セス但シ相續ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

○大藏省令第二十八號

明治二十六年大藏省令第十九號預金取扱規程同年大藏省令第二十號保管物取扱規程及明治三十三年大藏省令第六號供託物取扱規程ノ書式中左ノ通改正ス

明治三十三年七月二十五日

大藏大臣伯耆松方正義

(預金取扱規程第十二號書式)

領收證書

- 一金何圓也
- 内
- 金何圓也
- 金何圓也
- 右金額正ニ領收候也

年月日

(預金取扱規程第十二號保管物取扱規程第七號及供託物取扱規程第八號書式中利子記入證明式)

一金何圓也

内

金何圓也

金何圓也

右之通ニ候也

年月日

預金利子元加額何ノ陸分
(利率年何分何厘)
利付額何圓ニ對スル何年何月ヨリ何年何月マテ
何々

何 金 庫 印

利子額(利率年何分何厘)

利付額何圓ニ對スル何年何月ヨリ何年何月マテ
何々

何 金 庫 印

年月日

何 金 庫 印

○大藏省令第二十九號

神戸税關加納町用地海面波止新設工事ニ關スル競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十三年七月二十八日

大藏大臣伯爵松方正義

- 一口ノ金額壹萬圓以上貳萬圓未満ノ競争ニ加ハラントスル者ハ左ノ資格ヲ要ス
- 一 各人ニ在リテハ二年以來引續キ直接國稅年額五圓以上ヲ納ムルコト
- 二 商事會社ニ在リテハ拂込株金額又ハ財産ヲ目的トスル出資價格五萬圓以上ナルコト
- 一口ノ金額貳萬圓以上ノ競争ニ加ハラントスル者ハ左ノ資格ヲ要ス

○大藏省令第三十號

京都稅務管理局及上京稅務署廳舎新營工事ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十三年七月三十一日

大藏大臣伯爵松方正義

- 一 各人ニ在リテハ二年以來引續キ直接國稅拾五圓以上ヲ納ムル者
- 二 合名會社及合資會社ニ在リテハ財産ヲ目的トスル出資價格五萬圓以上ナルコト
- 三 株式會社ニ在リテハ拂込株金額五萬圓以上ナルコト
- 四 株式合資會社ニ在リテハ拂込株金額及財産ヲ目的トスル出資價格五萬圓以上ナルコト

○陸軍省令第十九號

陸軍雇員傭人若ハ其ノ遺族等ニシテ本年法律第三十號ニ依リ手當金ヲ受ケントスル者ノ出願手續ハ明治三十年陸軍省令第十二號ニ準據スヘシ但シ療治料補助料ノミヲ受ケントスル者ニ在リテハ所屬長官ニ願出テ該長官之ヲ審査シ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ進達スヘシ

明治三十三年七月六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍省令第二十號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通改正シ本月十八日ヨリ施行ス

明治三十三年七月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第八憲兵隊本部位置ノ區畫中代官町ヲ富田町ニ改ム

○陸軍省令第二十一號

軍馬輸送規則左ノ通改正ス

明治三十三年七月十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

軍馬輸送規則

- 第一條 軍馬ヲ補充ノ爲メ輸送スルニハ總テ此ノ規則ニ據ル
- 第二條 輸送ニ要スル人員ハ左ノ諸號ニ依リ各所管ニ於テ之レヲ定ム
 - 一 輸送取締ハ下士、屬若クハ技手一名同助手ハ馬匹三十頭毎ニ一名ノ割ヲ以テ兵卒若クハ牧手其他傭人ヲ以テ之レニ充ツ但發送地若クハ到着地ニ箇所以上ナルトキ又ハ途中ニ於テ二組以上ニ分離スルトキハ三十頭以内ト雖モ助手ヲ使用スルコトヲ得
 - 二 馬匹ノ牽夫ニハ八夫ヲ使用ス
- 第三條 輸送取締者ハ輸送途中ノ出來事ニ關シテハ必要ニ應シ市町村長船長若クハ驛長等ノ公證又ハ補助ヲ受クルモノトス
- 第四條 馬匹輸送費ハ送馬諸費若クハ馬匹買上代(牽付費)ヲ以テ支辨ス
- 第五條 汽車輸送ノ費用ハ左ノ諸號ニ據ル
 - 一 馬匹ハ一函六頭積トシ其運賃ハ實費トス
 - 二 八夫ハ一函一名乃至二名ノ割トシ汽車賃ハ其ノ實費額ヲ給シ給料ハ五十哩以下ハ七拾錢以内五十一哩以上ハ一哩ヲ増ス毎ニ壹錢以内ノ割ヲ以テ往路ノミ之ヲ給ス
 - 三 飼養料、藁香代及雜費ハ馬匹一頭一日金四拾五錢以内トス

第六條 船舶輸送ノ費用ハ左ノ諸號ニ據ル

- 一 馬匹ノ船賃、解賃及馬函料ハ實費トス
 - 二 八夫ハ馬匹六頭一名乃至二名ノ割トシ船賃及解賃ハ其ノ實費額ヲ給シ給料ハ五十海里以下ハ八拾錢以内五十一海里以上ハ一海里ヲ増ス毎ニ壹錢五厘以内ノ割ヲ以テ往路ノミ之ヲ給ス
 - 三 飼養料、藁香代及雜費ハ馬匹一頭一日金四拾五錢以内トス
- 第七條 陸路輸送ハ一日六里乃至八里トシ其ノ費用ハ左ノ諸號ニ據ル
- 一 廐舍料、飼養料、藁香代及雜費ハ馬匹一頭一日金六拾五錢以内トス
 - 二 八夫料ハ一名一日金壹圓貳拾錢以内ヲ以テ往路ノミ之ヲ給ス
- 第八條 牽具料ハ馬匹一頭金六拾錢以内トス
- 第九條 輸送馬匹ノ集合符合、疾病、傷痕、雪留、川支其ノ他事故ニ依リ滞在ヲ要スルトキハ一頭一日金五拾錢以内ヲ以テ支辨シ八夫ニハ滞在給料トシテ一名一日金六拾錢以内ヲ給ス病馬ヲ地方人民ニ委託スルトキモ亦本條ニ據ル
- 第十條 病馬ノ診斷料ハ一回金五拾錢以内藥價ハ一日金參拾錢以内トシ若シ斃馬處分ニ關シ費用ヲ要スルトキハ金四圓五拾錢以内ヲ以テ支辨スヘシ
- 第十一條 臺灣及韓國ニ於テ第五條乃至第十條ノ規程ニ據ル能ハサルトキハ實費支辨スルコトヲ得

○陸軍省令第二十二號

清國事件ニ付動員ヲ行ヒタル部隊ニ屬スル現役砲兵輸卒同輜重輸卒ノ在營期限ハ陸軍服役條例第

九十六條第二項ニ依リ當分之ヲ延期ス

明治三十三年七月二十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省令第二十號

海軍召集條例施行細則中左ノ通改正ス

明治三十三年七月二日

海軍大臣山本權兵衛

第七條中「本籍市町村長ヲ」本籍^{寄留地應召ノ}者ハ其ノ地^{市町村長ニ改メ}ニ改メ「到著スヘキ海兵團ノ長ヲ」到著スヘキ地ノ鎮守府兵事官ニ改メ

第八條中「履行スルモノトス」履行スヘシ但シ經由スヘキ市町村長若ハ領事官貿易事務官ハ現應召地ノ者トスニ改ム

第十四條第十七條第二十二條第二十七條第二十八條第三十八條第四十條第二項第四十八條第二項中ノ「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改ム

第十五條中「補充員」ヲ「補缺員」ニ改ム

第十八條中「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ「海兵團」ヲ「鎮守府」ニ改ム

第十九條中「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

兵事官ハ常ニ所管召集區域内海陸交通ノ狀況ニ注意シ變更アル毎ニ前項ノ表ヲ改正スヘシ

第二十一條中「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ改メ割註^{下士ナルトキハ}「到著スヘキ海兵團」ヲ到著スヘキ地ノ鎮守府兵事官ニ改ム

第二十三條中「海兵團」ヲ「兵事官」ニ改ム

第二十四條中「海兵團長」ヲ「兵事官」ニ「到著スヘキ海兵團」ヲ「到著スヘキ地ノ鎮守府」ニ「海兵團」ニ返

付スヘシヲ「鎮守府」ニ返付スヘシニ改ム

第三十一條中「條例第二十五條ノ場合モ亦同シ」ヲ削除シ左ノ一項ヲ加フ

條例第二十五條ノ場合亦前項ニ同シ但シ應召員ナキ郡市町村ニハ此ノ達ヲ省略スルコトヲ得

第四十六條「海兵團徵募官」ヲ「鎮守府兵事官」ニ改ム

第四十七條削除

様式第二「中」年齡ヲ「出生年月」ニ改ム

様式第三ノ二「裏第五項中割註」海兵團長ヲ「鎮守府兵事官」ニ改ム

様式第三ノ三「中」署名ヲ「官職氏名」ニ改ム

様式第三ノ四「中」來ルヲ「明治何年」ニ改ム

様式第四及第五ヲ左ノ通改ム

様式第四(用紙美濃紙)

(何)召集區明治(何)年豫(後)備役編入下士(卒)召集名簿

召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿
召集區	明治	(何)年	豫(後)備役編入下士(卒)	召集名簿

様式第五(用紙美濃紙)

召集令下達時間表

島 總 郡 區 名	市 役 所 名	町 村 名	決 定 時 間
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、

一決定下達時間ニハ發布後各自ニ交付シ終ルマテノ日數ノ見積數ヲ記ス

様式第六中「海兵團ニ至ル里數」ノ欄ヲ削除ス

様式第十五ノ一下士並卒ノ部兵種ノ欄中「水兵部」ノ次ニ「信號部」ノ欄ヲ加フ

○司法省令第二十一號

宮崎地方裁判所管内延岡區裁判所曾木出張所ヲ日向國東白杵郡北方村字瀧下ニ移シ瀧下出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十三年七月十一日ヨリ施行ス

明治三十三年七月五日

司法大臣清浦奎吾

○司法省令第二十二號

廣島地方裁判所管内尾道區裁判所津口出張所ヲ備後國世羅郡小國村ニ移シ小國出張所ト改稱ス

本令ハ明治三十三年七月十五日ヨリ施行ス

明治三十三年七月七日

司法大臣清浦奎吾

○司法省令第二十三號

相互保險會社ニ關スル登記ノ事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テノミ之ヲ取扱ハシム

明治三十三年七月十四日

司法大臣清浦奎吾

○司法省令第二十四號

產業組合ニ關スル登記ノ事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テノミ之ヲ取扱ハシム

明治三十三年七月十四日

司法大臣清浦奎吾

○司法省令第二十五號

帝國臣民外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルニ方リ帝國ノ法律ニ依リ其婚姻ノ障碍ト爲ルヘキ事項ノ存セサル旨又ハ婚姻ヲ爲ス男カ其婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪失スルコトナク之ヲ其妻及ヒ嫡出子ニ取得セシムルコトヲ得ル旨ヲ證スル當該吏員ノ證明書ヲ差出スコトヲ要スル場合ニ於テハ本籍地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ニ證明書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得但婚姻ニ付キ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ申請書ニ同意ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ハ證明書下付ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ職氏名ヲ摺シ職印ヲ

押捺シタル證明書ヲ下付スルコトヲ要ス

明治三十三年七月十六日

司法大臣 清浦奎吾
内務大臣 侯爵西郷從道

○司法省令第二十六號

岡山地方裁判所管内岡山區裁判所富山出張所ヲ備前國上道郡西大寺町ニ移シ西大寺出張所ト改稱ス
廣島地方裁判所管内尾道區裁判所三原出張所管轄備後國御調郡羽和泉村久井村及同區裁判所小國
出張所管轄備後國世羅郡西大田村ヲ同區裁判所甲山出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第
十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十三年七月二十五日ヨリ施行ス

明治三十三年七月十六日

司法大臣 清浦奎吾

管轄區	區裁判所	出張所	管轄
廣島 尾道	三原	備後	御調郡ノ内
		三原町	今津野村 八輪村 西野村 坂井原村 山中村 貫村
		備後	世羅郡ノ内
		甲山	御調郡ノ内
小國	備後	世羅郡ノ内	三川村 東村 廣定村 大見村 東大田村 西大田村
		御調郡ノ内	宇津戸村 羽和泉村 久井村
		世羅郡ノ内	津久志村 神田村 津名村 吉川村 上山村
		小國村	

○司法省令第二十七號

明治三十三年七月 内務省令第三十八號監獄則施行細則第十五條ヲ删除ス

明治三十三年七月十六日

司法大臣 清浦奎吾

〔参照〕

内務省令第三十八號監獄則施行細則(明治三十三年七月十九日)抄録
第十五條 特赦アリタルトキハ典獄ハ遠ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ
○司法省令第二十八號

京都地方裁判所管内舞鶴區裁判所市場出張所ヲ志樂出張所ト改稱ス

岡山地方裁判所管内片上區裁判所管轄備前國和氣郡三石村ヲ同區裁判所和氣出張所ノ管轄ニ改メ
明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十三年八月一日ヨリ施行ス

明治三十三年七月二十一日

司法大臣 清浦奎吾

管轄區	區裁判所	出張所	管轄
岡山 片上	和氣	備前	和氣郡ノ内
		備前	片上村 龜山村 香登村 伊部村 伊里村 日生村 福河村
		備前	和氣郡ノ内
		和氣	和氣郡ノ内
岡山	備前	和氣郡ノ内	英保村 神根村 三國村 藤野村 本莊村 日笠村
		和氣郡ノ内	山田村 鹽田村 熊山村 三石村
		備前	
		和氣	

○司法省令第二十九號

産業組合登記取扱手續左ノ通相定ム

司法大臣清浦奎吾

明治三十三年七月二十三日

産業組合登記取扱手續

- 第一條 産業組合登記簿ハ附録第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 産業組合登記見出帳ハ附録第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第三條 産業組合登記簿ハ各組合毎ニ別冊ト爲シ附録第三號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
- 第四條 登記所ニハ登記簿、組合員名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ
 - 一 謄本抄本證明書交付帳
 - 二 申請書附屬書類綴込帳
 - 三 受領證原符元帳
 - 四 決定原本綴込帳
 - 五 登記簿謄本綴込帳
 - 六 登記簿證交付帳
 - 七 抗告書類綴込帳
 - 八 印鑑簿
- 第五條 登記所ニ差出スヘキ組合員名簿ハ厚紙ノ表紙ヲ附シ其表面ニ何々組合ノ名稱組合員名簿ト記載シ裏面ニ枚數ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

組合員名簿ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ理事又ハ監事カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第六條 組合員名簿カ二冊以上ナルトキハ申請人ハ各冊ノ表紙ニ其冊數ヲ記載スヘシ

第七條 組合員名簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其申請書ニ變更シタル事項ノ記載アル用紙ヲ編綴セル組合員名簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘシ

第八條 組合員名簿ノ移轉シタル場合ニ於テ産業組合法第十六條ノ規定ニ依リ第十四條第一項ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキ又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其事由ヲ記載スヘシ

第九條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ組合員名簿ノ表紙ニ登記番號、受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記所ノ名稱ヲ記載スヘシ

第十條 組合員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ組合員登記簿ノ登記用紙中番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ變更シタル事項ノ記載アル組合員名簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載シ相當欄ニ産業組合法第十五條第二項ノ規定ニ依リ組合員名簿ニ記載シタル事項ヲ移シタル上變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ組合員名簿中相當部分ノ餘白ニ組合員登記簿第何冊第何丁ニ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第十一條 組合員ノ加入ニ因リ組合員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ組合員登記簿ノ登記用紙中番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ相當欄ニ産業組合

法第十五條第二項ニ掲ケタル事項ヲ登記スヘシ

第十二條 組合員ノ脱退ニ因リ組合員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ組合員名簿中相當部分ノ餘白ニ其登記ヲ爲シ脱退シタル組合員ノ氏名ヲ朱抹スヘシ

若シ其組合員カ組合員登記簿ニ登記セラレタル者ナルトキハ組合員登記簿ノ登記用紙中變更欄ニ脱退ノ登記ヲ爲シ登記番號及ヒ其組合員ノ氏名ヲ朱抹スヘシ

第十三條 組合員登記簿ノ登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル組合員登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルコトヲ記載シ組合員ノ氏名、住所欄ニ組合員ノ氏名、住所ヲ移シタル上登記ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字並ニ繼續用紙ヲ編綴セル組合員登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十九條、第四十七條、第五十一條及ヒ商業登記取扱手續第五條乃至第七條、第九條乃至第二十條、第二十二條乃至第三十三條、第四十四條、第四十六條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

附則

受附番號ハ明治三十三年分ニ限り十二月三十一日ニ止ムヘシ

<p style="text-align: center;">附録第一號</p> <p style="text-align: center;">産業組合登記簿</p> <p style="text-align: center;">區裁判所</p>	<p style="text-align: center;">紙數表紙ヲ除キ</p> <p style="text-align: center;">枚</p> <p style="text-align: center;">地方裁判所長</p>																																																																													
<p>第 號</p>																																																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">備</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">取</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">二十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">十</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">住</td> <td style="text-align: center;">氏</td> <td style="text-align: center;">名</td> <td style="text-align: center;">ノ</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">所</td> <td style="text-align: center;">名</td> <td style="text-align: center;">ノ</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> <td style="text-align: center;">算</td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">明治三十三年七月 省令 司法省第二十九號 産業組合登記取扱手續</td> </tr> </table>	備	取	二十	十	十	十	十	十	十	十	住	氏	名	ノ	算	算	算	算	算	算	所	名	ノ	算	算	算	算	算	算	算	明治三十三年七月 省令 司法省第二十九號 産業組合登記取扱手續										<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">一</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">二</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">三</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">四</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">五</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">六</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">七</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">八</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">九</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">名</td> <td style="text-align: center;">組</td> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">目</td> <td style="text-align: center;">年</td> <td style="text-align: center;">日</td> <td style="text-align: center;">日</td> <td style="text-align: center;">日</td> <td style="text-align: center;">日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">稱</td> <td style="text-align: center;">織</td> <td style="text-align: center;">所</td> <td style="text-align: center;">的</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">月</td> <td style="text-align: center;">月</td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">明治三十三年七月 省令 司法省第二十九號 産業組合登記取扱手續</td> </tr> </table>	一	二	三	四	五	六	七	八	九	名	組	年	目	年	日	日	日	日	稱	織	所	的	月	月	月	月	月	明治三十三年七月 省令 司法省第二十九號 産業組合登記取扱手續									
備	取	二十	十	十	十	十	十	十	十																																																																					
住	氏	名	ノ	算	算	算	算	算	算																																																																					
所	名	ノ	算	算	算	算	算	算	算																																																																					
明治三十三年七月 省令 司法省第二十九號 産業組合登記取扱手續																																																																														
一	二	三	四	五	六	七	八	九																																																																						
名	組	年	目	年	日	日	日	日																																																																						
稱	織	所	的	月	月	月	月	月																																																																						
明治三十三年七月 省令 司法省第二十九號 産業組合登記取扱手續																																																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">更</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">變</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">更</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">變</td> </tr> </table>		更	變	更	變																																																																									
更	變																																																																													
更	變																																																																													

附録第二號
産業組合登記見出帳
區裁判所

更	變	更	變
更	變	更	變

部	部
部	部

附録第三號
「何々」組合員登記簿
區裁判所

紙數表紙ヲ除キ
地方裁判所長
枚

(「」内ハ朱書)

更	變	更	變
更	變	更	變

更	變	更	變
更	變	更	變

○司法省令第三十號

産業組合登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十一年司法省令第十四號第一條及ヒ第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

明治三十三年七月二十三日

司法大臣清浦奎吾

○文部省令第十一號

文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十三年七月四日

文部大臣伯耆樺山資紀

文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ其ノ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ本邦駐在ノ公使若ハ領事ノ委託アルモノニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ本邦駐在ノ公使若ハ領事ノ委託書ヲ添ヘ當該帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 外國委託生ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 外國委託生ニハ入學檢定料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ現在スル外國人ハ其ノ學科ヲ修了スルニ至ルマテ本令ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

○文部省令第十二號

明治三十二年文部省令第四十三號第一條第一項中「文部大臣ノ認可ヲ受ケ」ノ十字ヲ削除シ但書ヲ左ノ如ク改正ス

但シ新ニ採用セントスル者ヲ加算シ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數教員免許狀ヲ有スル者ノ二倍ヲ超過スル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要ス

明治三十三年七月五日

文部大臣伯耆樺山資紀

〔參照〕

文部省令第四十三號(明治三十三年十一月二十日)抄録

第一條 中學校ニ於テ教員免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得但中學校教員檢定試験ノ準備試験ニ合格シ其ノ合格有效期間中ニアル者ニ限リハ本文ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス
前項ニ依リ採用スル教員ハ公立學校ニ在リテハ教諭又ハ助教諭ト稱スルコトヲ得ス

○農商務省令第十五號

保險業法施行規則左ノ通相定ム

明治三十三年七月二日

農商務大臣曾禰荒助

保險業法施行規則

第一條 保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ保險業法第五條及ヒ第六條ニ定メタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 發起認可ノ申請ハ株主又ハ社員ヲ募集スル場合ニ於テハ其募集前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 保險事業免許ノ申請ハ總取締役及ヒ總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ保險業法第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ノ外非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第六號及ヒ第九號ニ掲ケタル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號第三號及ヒ第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 保險會社カ保險業法第八條ノ規定ニ依リ書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 保險會社カ商法又ハ保險業法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第六條 保險會社ハ保險證券並ニ保險申込書ノ雛形及ヒ廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部ツツ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條 生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及ヒ第七號ニ定メタル權利ノ範圍ニ付キ當事者ニ拂渡スヘキ金額其標準若クハ第十三號書式ニ準シ其金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附スルコトヲ要ス

保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコト又ハ將來ノ保險料ノ拂込免除ノ爲メニ保險金額ヲ減少スヘキコトヲ定メタルトキ亦同シ

第九條 保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ左ニ掲ケタル各方法ニ付キ其五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無擔保貸付ヲ爲スコト

二 同一人ニ貸付又ハ預金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト

三 同一會社ノ株券若クハ債券ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

四 同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

前項第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル方法ニ依リテ利用シタル金額ハ之ヲ通算ス

第十條 事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役及ヒ監査役之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一 事業年度ニ於ケル定款又ハ普通保險約款ノ變更其他重要ナル事件

二 事業ノ成績(第一號書式ニ準ス)

三 生命保險及ヒ火災保險ニ在リテハ統計(生命保險ニ在リテハ第二號乃至第七號書式、火災保險ニ在リテハ第八號書式ニ準ス)

第十一條 財産目録貸借對照表損益計算書及ヒ基金ノ償却其利息ノ支拂準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第九號乃至第十二號書式ニ準シテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 財産目録ノ一項目中ニ價額二千圓以上ノモノアルトキハ其項目ノ内譯トシテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十三條 財産目録及ヒ貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ

算入スヘカラス

第十四條 保險會社ハ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

一 事業年度ニ於テ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲ササルトキハ其金額

二 事業年度ニ於テ生シタル事故ノ爲メニ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

第十五條 生命保險會社ノ責任準備金ハ保險料積立金及ヒ未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス

第十六條 生命保險會社カ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ算出セサルトキハ貸借對照表中責任準備金ノ下ニ純保險料式ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十七條 生命保險會社ノ未經過保險料ハ箇箇ノ契約ニ付キ之ヲ計算セサルトキハ其事業年度ニ收入シタル保險料ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 損害保險會社ノ責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料(再保險者ニ支拂ロタル保險料ヲ控除ス)中ヨリ其年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲メニ支拂ロタル保險金額(再保險者ヨリ得タル保險金額ヲ控除ス)其契約ノ爲メニ積立ツヘキ支拂備金及ヒ其年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス

第十九條 損害保險會社カ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキ契約ヲ爲ストキハ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其殘額ニ付キ前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及ヒ前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金カ保險契約ノ未經過期間ニ對シ不足ナルトキハ會社ハ相當ノ増額ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 責任準備金算出ノ爲メニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及ヒ順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次回ノ責任準備金算出ヲ結了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十二條 任意ノ解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表及ヒ保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 合併ノ認可申請書ニハ保險業法第七十四條ニ掲ケタル書類ノ外理由書、總會ノ決議及ヒ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十四條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ本店又ハ主ナル事務所在地ノ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

前項ノ書類ハ強靱ナル美濃判大ノ紙料ヲ用ユルコトヲ要ス但印刷物ハ此限ニ在ラス

第二十五條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ其譯文ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十六條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價額ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣カ告示スル内外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第一號

保險契約種類別統計表

年	始	現在	契約	成立	利益配當付		利益配當ナ		養老保險	合		
					人員	金額	人員	金額				
申	年	始	現在	契約	成立	人員	金額	人員	金額	人員	金額	
内	拒	契	約	成	立	人員	金額	人員	金額	人員	金額	
累	加	變	更	等	二	因	ル	増	加	人員	金額	
被	保	險	者	ノ	死	亡	シ	タ	ル	人員	金額	
保	險	期	間	ノ	満	了	シ	タ	ル	人員	金額	
解	約	ニ	因	リ	テ	消	滅	シ	タ	ル	人員	金額
送	波	變	更	等	ニ	因	ル	減	少	人員	金額	
年	末	現	在	契	約	人員	金額	人員	金額	人員	金額	

備考 本表ハ死亡(生死混合保険ヲ含ム)、生存、年金、徴兵等ノ各種類毎ニ之ヲ作ルコトヲ要ス以下第六號書式ニ至ルマテ皆同シ

申込ノ數ニハ前年度ニ於ケル申込ニシテ其處分ヲ終ラサルモノヲ加フルコトヲ要ス

同種類ノ保險契約ト雖モ「利益配當付」ト「利益配當ナシ」トアルトキハ之ヲ分ツコトヲ要ス

第二號

保險契約金額別統計表

金 額	新 契 約	被 保 險 者 ノ 死	保 險 期 間 ノ 満	其 他 ノ 事 由 ニ 因	年 末 現 在	合 計	
						人員	金額
一	百	圓	以	下		人員	金額
二	百	圓	以	下		人員	金額
三	百	圓	以	下		人員	金額
五	千	圓	以	下		人員	金額
一	萬	圓	以	下		人員	金額
二	萬	圓	以	下		人員	金額
五	千	圓	以	下		人員	金額
五	千	圓	以	下		人員	金額
合	計					人員	金額

備考 年金保險ニ在リテハ金額ノ階級ヲ各十分ノ一ニ改ムルコトヲ要ス
「二百圓以下」ニハ「二百圓ヲ含ム」以下之ニ準ス

第四號

保險被保險者現住地方別統計表

地 方	新 契 約	被 保 險 者 ノ 死	保 險 期 間 ノ 満	其 他 ノ 事 由 ニ 因	年 末 現 在	
						人員
北 海 道	人員	金額	人員	金額	人員	金額
東 京 府	人員	金額	人員	金額	人員	金額
京 都 府	人員	金額	人員	金額	人員	金額
大 阪 府	人員	金額	人員	金額	人員	金額

第五號

、保險被保險者死亡比較統計表

生年	在年		在年		死亡		經過契約		豫定死亡	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
明治十年										
明治九年										
明治八年										
合計										

第六號

、保險契約經過年數別統計表

經過年數	死亡		解約		年未現在	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
一年以下						
一年以上二年以下						
三年以上五年以下						
六年以上十年以下						
十一年以上二十年以下						
二十年以上						
合計						

第七號

死亡保險被保險者年齡及性別死因統計表

死因	五年以下		十年以下		十五年以下		二十年以下		二十年以上	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
合計										

瘰癧	疥癬	亞細亞	刺瘡	疥癬	赤痢	流行性感冒	其他急性傳染病	肺結核	其他器臟結核	梅毒	脚氣	胃腸病	其他	精神病	腦溢血	腦充血、腦貧血	其他神經系疾患	心臟瓣膜疾患	其他循環器疾患	氣管枝炎	肋膜炎	肺氣腫	肺炎
瘰癧	疥癬	亞細亞	刺瘡	疥癬	赤痢	流行性感冒	其他急性傳染病	肺結核	其他器臟結核	梅毒	脚氣	胃腸病	其他	精神病	腦溢血	腦充血、腦貧血	其他神經系疾患	心臟瓣膜疾患	其他循環器疾患	氣管枝炎	肋膜炎	肺氣腫	肺炎

第八號

火災保險契約地方別統計表

地 方	新 契 約		支拂ロタル保		保費額ノ外如左ニ因		年 末 現 在	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額
北海道								
東京府								
京都府								
大阪府								
合 計								

神奈川縣	
〃〃〃	
〃〃〃	
沖繩縣	
〃〃〃	
福海縣	
〃〃〃	
外國	
合計	

第九號

備考 本表ニハ再保險ノ保險金額及ヒ保險料ヲ控除シテ記載スルコトヲ要ス

明治 年 月 日 財産目錄 (會社ノ商號)

未拂込様金又ハ未拂込基金	
何 某 別ニ明細表ヲ添附スルモノ	
何 某 ハ第十二條ノ規定ニ依ラス	
外何名 此内譯ラ省クコトヲ得	
現金	
銀行預金	
定期預金	
銀行(平均利率年)	
外幾銀行()	
當座預金	
銀行(平均利率年)	
外幾銀行()	
貸付金(附録甲)	
外幾銀行()	

不動產抵當(平均利率年)	
有價證券擔保()	
保險證券擔保()	
無擔保()	
其他幾口()	
有價證券(附録乙)(平均豫算利率年)	
不働産(附録丙)(平均豫算利率年)	
什器	
未收利息	
未收保險料	
支店出張所代理店貸	
假拂金	
合計	
株金又ハ基金	
保險業法第六十條積立金	
法定準備金	
責任準備金(附録丁)	
支拂備金	
支店出張所代理店借	
合計	

右ノ通租違無之候也

明治 年 月 日

取締役

會社ノ帳簿及ヒ財産ヲ調査シ前記ノ通相違無之ト相認候也
明治 年 月 日

監査役

第九號附錄甲

貸付金明細表

借主ノ氏名又ハ 證書ノ番號	金 額	利率(年)	償還期限 及返済方法	擔 保
合計				

第九號附錄乙

有價證券明細表

備考 一口三千圓未満ノ貸付金ハ財産目録中「貸付金」ノ内譯ニ從ヒ其總額ヲ記載スルコトヲ得

券 名	數	價 額	種 類	額 面	期 日	備 考
合計						

第九號附錄丙

不動産明細表

所在及ヒ種類	用 法	構 造	坪 數	價 額	算一年間 利益	租稅及ヒ諸 費用ノ概算
所在土地 所在建物 所在建物						
合計						

第九號附錄丁ノ一

(生命保險)

責任準備金明細表

備考 「償還」以下ノ欄ニ記載スヘキ數ニシテ土地ノ建物トニ分チ難キモノハ其合計額ヲ記載スルコトヲ得

計算ノ基礎(死亡表ノ名稱)	終身	終身兼老	生存	死亡保險	生存保險	合 計
合計						

年未責任準備金	年未保險料積立金	年未經過保險料	年未經過保險料	年未經過保險料積立金	年未經過保險料	年未經過保險料積立金

第九號附録丁ノ二 (損害保險)

責任準備金參考表	本年於收入シタル保險料
本年 完フヘキ部分	本年ニ於テ收入シタル保險料
本年ニ於テ收入シタル保險料ノ爲メニ支拂ヒタル保險金額	本年ニ於テ收入シタル保險料
本年ニ於テ收入シタル保險料ノ爲メニ積立タル支拂備金	本年ニ於テ收入シタル保險料
營業費	本年ニ於テ收入シタル保險料
差引	本年ニ於テ收入シタル保險料
外ニ	本年ニ於テ收入シタル保險料
拂戻積立金	本年ニ於テ收入シタル保險料
明治 年 月 満期契約ニ關スル拂戻金	本年ニ於テ收入シタル保險料
明治 年 月 満期契約ニ關スル拂戻金	本年ニ於テ收入シタル保險料
合計	本年ニ於テ收入シタル保險料

第十號

明治 年 月 日貸借對照表 (會社ノ商號)	
<ul style="list-style-type: none"> 未拂込株金又ハ未拂込基金 現金 銀行預金 貸付金 有價證券 不動産 什器 未收利息 未收保險料 支店出張所代理店貸假拂金 未償却設立費用及營業費(附録甲) 保險業法第九條未填補不足額(附録乙) 損失又ハ不足 合計 	<ul style="list-style-type: none"> 株金又ハ基金 保險業法第六十條積立金 法定準備金 責任準備金 支拂備金 支店出張所代理店借 利益又ハ剩餘金 合計
右ノ通相違無之儀也	
明治 年 月 日	
會社帳簿及ヒ財産ヲ調査シ前記ノ通相違無之ト相認候也	
明治 年 月 日	
取締役	
監査役	

第十號附錄甲

設立費用及營業費償却明細表

年度	設立費用		營業費償却		各年度營業費償却額	償却額合計
	償却額	償却額	償却額	償却額		
明治						
年						
度						
不足額						
填補額						

第十號附錄乙

保險業法第九條不足額填補明細表

年度	不足額	填補額	尚欠額
明治			
年			
度			
不足額			
填補額			
尚欠額			

第十一號

自明治 年 月 日 至明治 年 月 日 損益計算書 (會社ノ商號)

收 入		支 出	
前年度ヨリ繰越金		前年度繰越損失又ハ不足額	
利息又ハ剩餘金		再保險料	
責任準備金		保費	
支拂金		解約返戻金	
...			
合計		合計	

第十二號

自明治 年 月 日 至明治 年 月 日 年度 (會社ノ商號) 二關スル決議書

利益又ハ剩餘金

保 險 料		其 他 返 戻 金	
再保險金		營業費	
諸利息		社費	
財產賣却益		代理店手数料	
財產評價益		紹介手数料	
		醫師報酬	
		財產賣却損	
		財產評價損	
		次年度繰越金	
		責任準備金	
		支拂金	
		合計	

右ノ通相違無之候也

明治 年 月 日

會社取締役及ハ財産ヲ調査シ前記ノ通相違無之ト相認候也

取締役
監査役

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

法定準備金
 保險業法第六十條積立金
 役員賞與金
 、、、、
 基金利息
 保險契約配當金
 株金又ハ基金配當金
 次年度へ繰越

右ノ通明治 年 月 日總會ニ於テ決議ス

取締役
 監査役

第十三號

「尋常終身保險解約價額表」 (保險金額一〇〇ニ對スル比)

經過年數	契約締結ノ時ニ於ケル被保險者ノ年齡				
	一五	二〇	二五	三〇	、
一	、	、	、	、	、
二	、	、	、	、	、
三	、	、	、	、	、
四	、	、	、	、	、
五	、	、	、	、	、

【参照】

明治三十三年五月十日省令第十一號ハ不動産登記法施行細則ナリ

○農商務省令第十六號
 產業組合法施行規則左ノ通相定ム

明治三十三年七月三日
 農商務大臣曾禰荒助

產業組合法施行規則

一	〇
二	〇
三	〇
四	〇
五	〇
六	〇
七	〇
八	〇

第一條 出資一口ノ金額ハ五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第二條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收スルトキハ其金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス脱退シタル組合員ニ對シ其持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其殘額ニ付キ亦同

第五條 理事及ヒ監事ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

- 第六條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス
- 第七條 理事ハ總會ノ承認ヲ經タル後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ地方長官ニ差出スコトヲ要ス
- 第八條 組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 - 一 組合員ノ數及ヒ出資口數ノ異動
 - 二 出資拂込ノ總額及ヒ剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其總額
 - 三 借入金及ヒ其償還
 - 四 準備金及ヒ各種ノ積立金
 - 五 總會ノ決議
 - 六 事業ノ狀況
 - 七 信用組合ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、受入又ハ拂戻シタル貯金額及ヒ貯金並ニ貸付金ノ利率其他ノ組合ニ在リテハ販賣、購買又ハ生産シタル物ノ種目別ノ數量及ヒ價額
 - 八 組合員ノ職業別ノ數及ヒ出資口數
 - 九 保證責任組合ニ在リテハ保證金額
 - 十 處務ノ要件
- 第九條 理事ハ毎年總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ要ス
 - 一 一事業年度ニ於テ借入ルルコトヲ得ヘキ最高金額
 - 二 信用組合ニ在リテハ一事業年度ニ於テ一組合員ニ貸付スルコトヲ得ヘキ最高金額

- 第十條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第十一條 持分ニ對スル剩餘金分配ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 合併ノ認可申請書ニハ第十條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及ヒ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第十三條 組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十條ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第十四條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス
- 第十五條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス
- 第十六條 組合カ産業組合法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス但組合員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス
- 第十七條 組合ヨリ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スルコトヲ要ス

附 則

- 第十八條 本則ハ産業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十九條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

○農商務省令第十七號

明治三十三年法律第四十五號蠶種検査法施行規則左ノ通相定ム

明治三十三年七月二十六日

農商務大臣曾禰荒助

蠶種検査法施行規則

- 第一條 蠶種製造者ハ地方長官ノ定ムル期日マテニ様式第一號ニ準シ蠶種製造届書ヲ製造所所在地ノ地方長官ニ差出スコトヲ要ス
- 第二條 蠶種製造者ハ掃立ノ際蠶量ヲ正確ニ量定スルコトヲ要ス
- 第三條 蠶種製造者ハ越年蠶種ニ在リテハ産卵前ニ、不越年蠶種ニ在リテハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ臺紙ヲ差出ス前ニ一化性ニ化性、多化性ノ別及ヒ蠶種ノ名稱ヲ臺紙ノ表面ニ、製造者ノ氏名、住所ヲ其表面又ハ裏面ニ記載シ且越年蠶種ニ在リテハ産卵後ノ検査前ニ、不越年蠶種ニ在リテハ産卵後直チニ産卵ノ年月日ヲ臺紙ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四條 原種ヲ製造スルニハ一母蛾ヲシテ一區ニ産卵セシメ母蛾ト其區トニ同一ノ符號ヲ附スルコトヲ要ス
- 第五條 原種製造ニ供用スル臺紙ハ之ヲ二十八區ニ分ツコトヲ要ス
- 第六條 蠶量一匁ニ對シ收繭ノ量一化性ニ在リテハ一斗二升未満ニ化性ニ在リテハ九升未満、多化性ニ在リテハ七升未満ナルトキハ收繭ノ量著シク減少シタルモノト看做ス
- 第六條 蠶種ノ検査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

一 收繭後ニ於テ繭及ヒ其原種ノ掃殼

- 二 産卵後ニ於テ卵及ヒ出殻繭、不越年製絲用種ニ在リテハ出殻繭
- 三 原種ニ在リテハ前二號ニ掲ケタルモノノ外其製造ニ供用シタル母蛾
- 第七條 前條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタルモノノ検査ハ蠶種製造所ニ於テ之ヲ行ヒ母蛾及ヒ不越年原種ノ卵ノ検査ハ蠶種検査所ニ於テ之ヲ行フ
- 第八條 原種ノ名稱又ハ製造者ヲ異ニスル蠶兒、繭又ハ卵ハ之ヲ混同スルコトヲ得ス
- 第九條 蠶種製造者ハ收繭後ノ検査ヲ受ケル前種繭トスヘキモノヲ選別シ其份量ト收繭總份量トヲ各別ニ量定シ且蠶種検査法第四條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ殺蛹スルコトヲ要ス
- 第十條 收繭後ノ検査ニ合格シタル繭ニ對シテハ其名稱ヲ異ニスル毎ニ様式第二號ノ種繭證明書ヲ交付ス
- 検査ヲ經タル掃殼ノ臺紙ニハ様式第三號ノ掃殼検査済ノ印ヲ押捺ス
- 第十一條 不越年蠶種ノ製造者ハ臺紙及ヒ種繭證明書ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス
- 蠶種検査所ハ原種ニ在リテハ様式第四號ノ原種用ノ印、製絲用種ニ在リテハ様式第五號ノ製絲用種検査合格ノ證印ヲ臺紙ノ裏面ニ押捺シ且原種用ト製絲用トニ區別シテ臺紙ノ數ヲ種繭證明書ニ記載ス
- 第十二條 不越年原種ノ製造者ハ製造後直チニ原種及ヒ母蛾ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス
- 第十三條 不越年蠶種ノ産卵後ノ検査ヲ爲シタルトキハ種繭證明書ニ様式第六號ノ出殻繭検査済ノ印ヲ押捺シ且産卵ニ供用セザリシ臺紙アルトキハ其證印ノ上ニ様式第七號ノ消印ヲ押捺ス

第十四條 越年蠶種ノ産卵後ノ検査ヲ爲シタルトキハ原種ニ在リテハ様式第四號ノ原種用ノ印製絲用種ニ在リテハ様式第五號ノ製絲用種検査合格ノ證印ヲ蠶種蠶紙ノ裏面ニ押捺シ且種蠶證明書ニ様式第六號ノ出殻證検査済ノ印ヲ押捺ス

第十五條 越年原種ノ母蛾ノ検査期日ハ毎年九月一日以後ニ於テ地方長官之ヲ定ム

第十六條 母蛾ノ検査ヲ爲スニ當タリ微粒子ヲ發見シタルトキハ様式第八號ノ有毒ノ印ヲ、微粒子ヲ發見セサルトキハ様式第九號ノ無毒ノ印ヲ其産卵シタル區ニ押捺ス

有毒卵ノ區及ヒ母蛾ノ缺ケタル區ヲ除去シタル後蠶紙ニ様式第十號ノ原種検査合格ノ證印ヲ押捺ス

第十七條 蠶種蠶紙ヲ截斷シテ蠶種ヲ讓渡セントスル者ハ検査ヲ受クル前蠶紙ノ裏面ニ截斷スヘキ部分ヲ區劃シ其各部分ニ検査合格ノ證印ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其各部分ニ第三條ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 原種ノ製造ニ供用シタル母蛾カ亡失又ハ混亂シタルトキハ其蠶種ニ對シ製絲用種検査合格ノ證印ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 種蠶證明書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ蠶種製造者ハ更ニ其交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 蠶種製造者カ收購後ノ検査ニ合格シタル蠶種ノ全部又ハ一部ヲ讓渡セントスルトキハ當事者雙方連署シ讓渡人ノ所轄蠶種検査所ニ種蠶證明書ノ書換ヲ請求スルコトヲ要ス

蠶種検査所カ書換ヲ爲シタルトキハ直チニ其旨ヲ讓受人ノ所轄蠶種検査所ニ通知スルコトヲ要ス

讓受人ヲ終ハリタルトキハ讓受人ハ直チニ其旨ヲ所轄蠶種検査所ニ届出ルコトヲ要ス

第二十一條 蠶種検査法ニ於テ自家用ノ爲メ蠶種ヲ製造スル者トハ自ラ掃立テタル蠶兒ヨリ産出シタル蠶ヲ以テ自家飼育ニノミ供用スル蠶種ヲ製造スル者ヲ謂フ

第二十二條 學校、講習所、傳習所、試験場其他學術研究ノ爲メ蠶種ヲ製造スル者ニシテ蠶業ニ關スル學識經驗アル職員二名以上ヲ有シ且蟻量十匁以上ヲ飼育スルニ適當ナル蠶室、蠶具其他ノ設備ヲ有スルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケテ其製造シタル蠶種ヲ原種トシテ配付スルコトヲ得

前項ノ認可ハ何時ニテモ之ヲ取消スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 名稱及ヒ所在

二 蠶業ニ關スル設備

三 蠶種ノ製造、検査及ヒ配付ニ關スル規程

四 蠶業ニ關スル職員ノ氏名及ヒ履歷

前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ變更シ又ハ職員ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第二十四條 第二十二條第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ毎年一月三十一日マテニ様式第十一號ニ依リ前年ノ成績表ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第二十五條 前二條ノ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第二十六條 蠶種検査員ハ様式第十二號ノ證票ヲ携帯スルコトヲ要ス

第二十七條 蠶種検査員ハ左ニ掲ケタル者ヨリ地方長官之ヲ命ス

- 一 農商務省蠶業講習所、農務局舊蠶業試驗場又ハ農務局假試驗場蠶事部ヲ卒業シタル者
 - 二 農務局ノ檢定試驗ニ及第シタル者
 - 三 地方長官ノ信認セル學校、講習所、傳習所又ハ試驗場ニ於テ蠶業ニ關スル學科ヲ修了シタル者
 - 四 蠶業ニ熟達シ成鹵鑑査ニ精通スル者
- 第二十八條 地方長官カ蠶種検査員ヲ命免シタルトキハ其氏名ヲ告示スルコトヲ要ス
- 第二十九條 地方長官カ蠶種検査所ノ位置若クハ管轄區域ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス蠶種検査所ヲ開始シ又ハ閉鎖シタルトキ亦同シ
- 第三十條 地方長官ハ毎年五月十五日マテニ様式第十三號ニ依リ前年度ノ検査成績表ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス
- 第三十二條 蠶種ノ検査ニ關スル手續ハ地方長官之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

第三十二條 本則ハ明治三十三年法律第四十五號蠶種検査法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本則施行ノ日ヨリ一年間ハ第四條第二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

明治三十年農商務省令第八號蠶種検査法施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

様式

第一號 蠶種製造届書

化性	期名	原種	製造所	製造年	
				原種	製造所
一化性					
二化性	第一化				
	第二化				
多化性	第一化				
	第二化				
	第三化				
	第四化				
合計					

備考 多化性ニ第五化以上ノモノアルトキハ相當ノ欄ヲ設ケテ之ヲ記入シ同化期ノモノニ越年種ト不越年種トアルト

第二號 種繭證明書

キハ各別ニ之ヲ記載スヘシ
掃立收繭又ハ産卵ノ場所ヲ異ニスルトキハ製造所ノ欄ヲ区分シテ之ヲ記載スヘシ

種繭證明書

番號

一名稱
一化性及ロ化期
一掛盆
右種繭検査ニ合格シタルコトヲ証ス

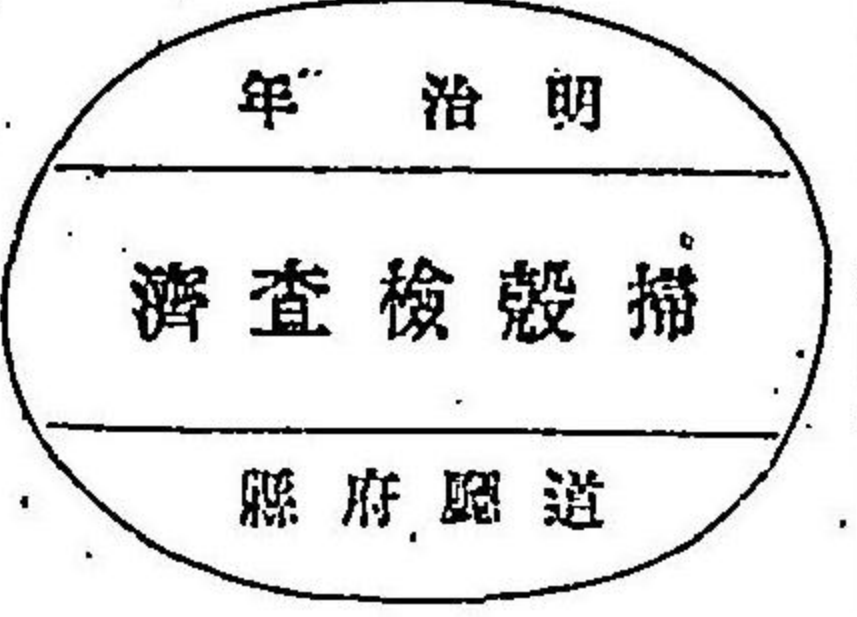
年月日

住所
蠶種製造者 氏 名

道廳府縣蠶種検査員 氏 名印

第三號 掃殼検査濟印

楕圓形
長徑一寸二分
短徑八分
肉色黑



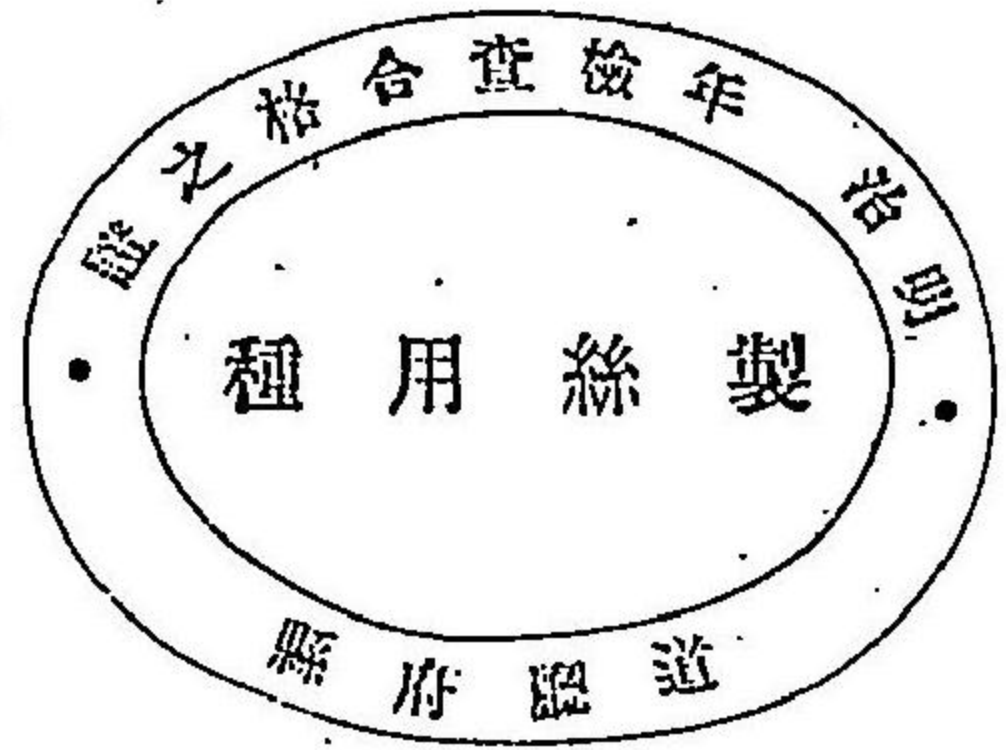
第四號 原種用印

圓形
徑七分
肉色黑



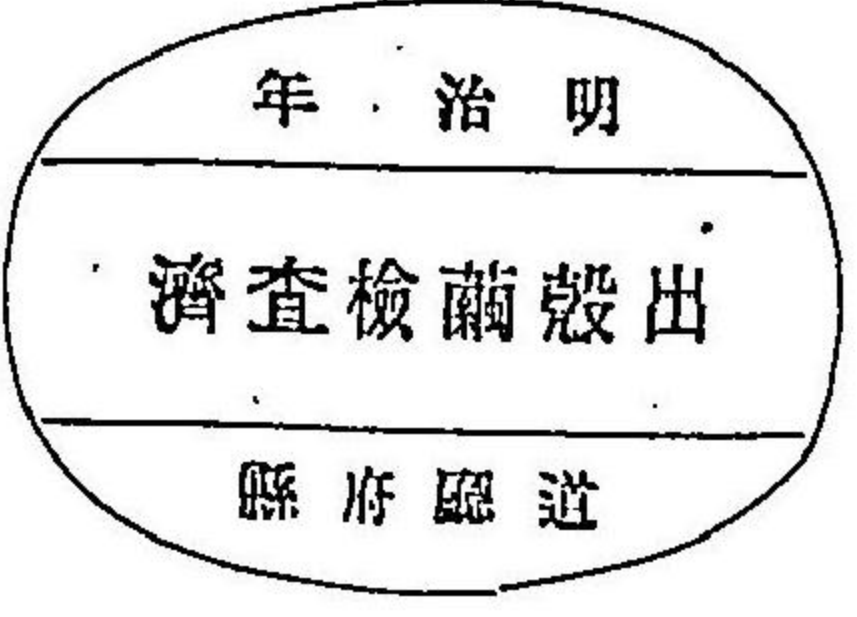
第五號 製絲用種検査合格證印

楕圓形
長徑一寸五分
短徑一寸
肉色朱



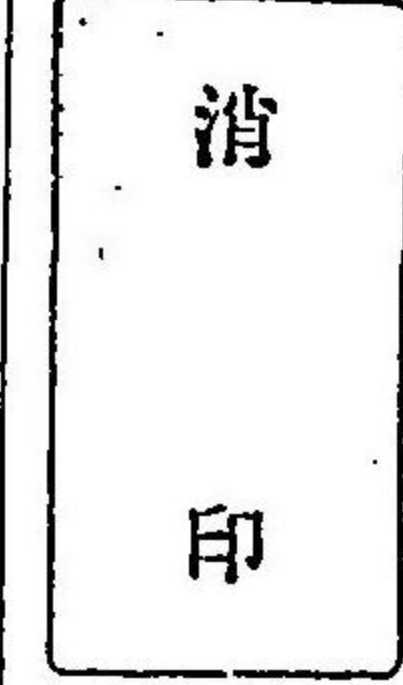
第六號 出殼繭検査濟印

楕圓形
長徑一寸
短徑六分
肉色黑



第七號 消印

長方形
縱一寸
橫五分
肉色黑



第八號 有毒印

第九號 無毒印

長方形
縱三分
横二分
肉色黒

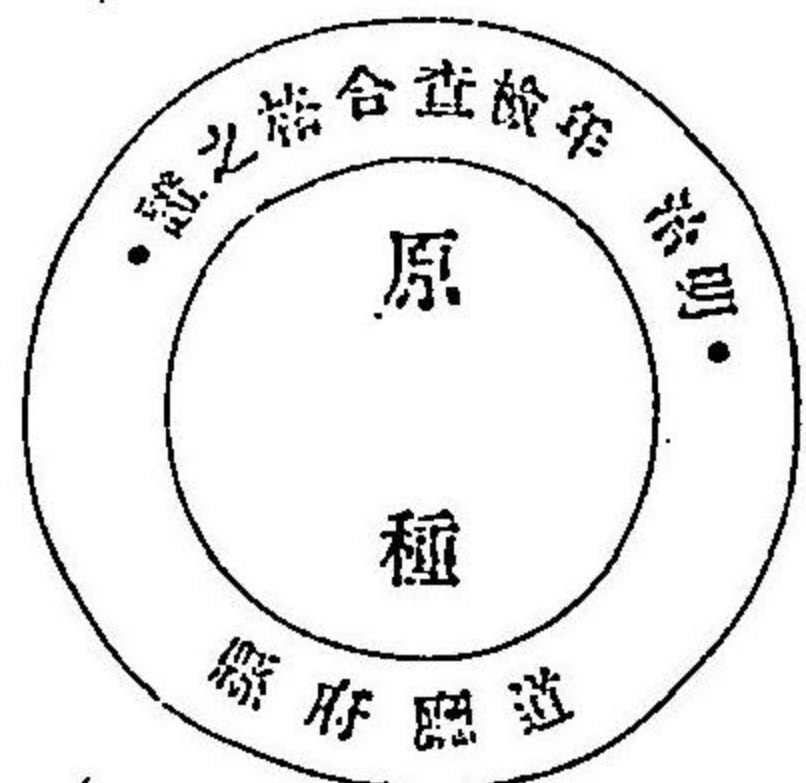
有毒

圓形
徑二分五厘
肉色朱

無毒

第十號 原種検査合格證印

圓形
徑一寸五分
肉色朱



第十一號 明治 年成績表

化性	一期	二期	三期	合計	原種	他種	合計
	一化性	二化性	三化性	合計			
二化性	第一期	第二期	第三期	合計			
合計							

多化性	第一期	第二期	第三期	第四期	合計	原種	他種	合計
	一化性	二化性	三化性	合計	原種			
二化性	第一期	第二期	第三期	第四期	合計			
合計								

備考 掃立ヨリ産卵ニ至ルマデノ狀況ヲ附記スヘシ
第十二號 蠶種検査員證票

縦二寸五分
横一寸八分

番號
蠶種検査員氏名
明治 年 月 日
道庁印

第十三號 明治三十三年四月三十一日 検査成績表

第一表 蠶種製造者數

合計	郡市	一化性				多化性			
		第一製造者	第二製造者	第三製造者	第四製造者	第一製造者	第二製造者	第三製造者	第四製造者

備考 産卵後ノ検査ヲ受ケサル者ノ數ハ本表ニ算入スヘカラス
 多化性ニ第五化以上ノモノアルトキハ相當ノ欄ヲ設ケテ之ヲ記入シ同化期ノモノニ越年種トアルトキハ
 各別ニ之ヲ記載スヘシ以下第五表ニ至ルマテ皆同シ
 蠶種製造者ノ欄ニハ其實數ヲ記載スヘシ(一化性ト二化性トヲ併セテ)

第二表ノ一 一化性原種掃立蠶數及ヒ蠶量

合計	郡市	蠶數		蠶量	
		數	量	數	量

第二表ノ二 二化性原種掃立蠶數及ヒ蠶量

合計	郡市	蠶數		蠶量	
		數	量	數	量

第二表ノ三 多化性原種掃立蠶數及ヒ蠶量

合計	郡市	蠶數				蠶量			
		第一	第二	第三	第四	第一	第二	第三	第四

第三表ノ一 一化性繭粉量

合計	郡市	合格繭粉		其他	
		繭粉	量	繭粉	量

備考 一化性及ヒ多化性ニ付テハ第二表ニ準シテ本表ヲ調製スヘシ
 第四表ノ一 一化性製絲用種枚數

合 計	郡 市		格 不 合 格	計
	無 毒	有 毒		

備考 原種用ノ印アルモノニ製絲用種検査合格ノ證明ヲ與ヘタルトキハ越年種ニ在リテハ百蠶區、不越年種ニ在リテハ五十蠶區ヲ以テ一枚ニ換算シ端數ハ四捨五入スヘシ
 一化性及ヒ多化性ニ付テハ第二表ニ準シテ本表ヲ調製スヘシ

第五表ノ一 一化性原種蠶數

合 計	郡 市				計
	無 毒	有 毒	其 他	計	

備考 一化性及ヒ多化性ニ付テハ第二表ニ準シ本表ヲ調製スヘシ

○外務省令第三號

領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程左ノ通定ム

明治三十三年八月二十九日

外務大臣子爵青木周藏

領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程

第一條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ハ法令ニ特別ノ明文アル場合ノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 領事官ハ左記ノ手数料ヲ徵收ス

- 一 領事官職務規則第六條ニ依ル財産又ハ遺産ノ保護管理
 財産價格百分ノ一トシ最多額ヲ五十圓トス但シ錢ニ滿タサル端數ノ金額ハ之ヲ徵收セス
- 二 領事官職務規則第七條ニ依ル名簿又ハ其ノ他ノ文書ノ閱覽
 五十錢
 五十錢乃至五十圓
- 三 名簿又ハ其ノ他ノ文書ノ認證シタル謄本又ハ抄本ノ交付
 五十錢
- 四 民法及戶籍法ノ規定ニ依ル身分ニ關スル届書、證書又ハ航海日誌謄本受理ノ證明書ノ交付
 五十錢
- 五 遺言ノ取扱
 二圓
- 六 在留證明
 一圓
- 七 船舶積量ノ測度又ハ改測ノ取扱
 三圓
- 八 假船舶國籍證書ノ交付
 三圓
- 九 船舶進水ノ證明
 三圓

十	船舶ノ入港及出港ノ取扱	五十錢
	二十噸又ハ二百石以上ノ船舶ニ付	一圓
	百噸又ハ千石以上ノ船舶ニ付	一圓
	二百噸以上ノ船舶ニ付	一圓
	五百噸以上ノ船舶ニ付	一圓
	千噸以上ノ船舶ニ付	一圓
十一	船舶發着ノ證明	四圓
	千噸未滿ノ船舶ニ付	十二圓
	千噸以上ノ船舶ニ付	十二圓
十二	船舶健全證書ノ交付	十一圓
十三	航海獎勵法施行細則第四十二條ニ依ル公認	三圓
十四	航海獎勵法施行細則第二十九條ニ依ル船舶職員補缺ノ公認	三圓
十五	旅券ノ交付	一圓
十六	旅券ノ査證	二圓
十七	日本品ノ外國輸入證明ノ取扱	一圓
十八	人民ノ申請ニ因ル諸種ノ證明、公認、認證又ハ登錄	一圓
十九	仲裁又ハ和解ノ取扱	一圓
第二十	特ニ費用ヲ要スル事項ニ關シテハ申請者ヲシテ手数料ノ外其ノ實費ヲ負擔セシム	五十錢乃至六十錢
第二條	第一號ニ定メタル手数料ハ財産價格二百圓ニ滿タサルトキハ之ヲ免除ス	三十圓

第五條 第二條第四號及第六號ニ定メタル手数料ハ申請者無資力ナルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第六條 領事官ノ取扱フ事項ニシテ第二條ニ掲ケサルモノニ關シテハ領事官ハ其ノ地ノ慣例ヲ參酌シ外務大臣ノ認可ヲ經テ二十圓以内ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 人民ノ申請ニ因リ領事館所在地外ニ出張シテ事務ノ取扱ヲ爲スコトヲ要スルトキハ出張費用ヲ徵收ス

出張費用ハ最初一時間二圓トシ一時間ヲ加フル毎ニ一圓ヲ加フ又每一日八圓トス但シ一時間未滿ハ一時間トシテ計算シ六時間以上二十四時間以下ハ一日トシテ計算ス

第八條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ハ外國ノ貨幣ヲ以テ納メシムルコトヲ得其ノ換算相場ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ハ外務大臣ノ特ニ指定スル地ニ於テハ收入印紙ヲ以テ納付セシムルコトヲ得

第十條 本令ハ貿易事務官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ之ヲ準用ス

附 則

第十一條 本令ハ領事官職務規則施行ノ日ヨリ施行ス

○内務省令第三十八號

明治三十一年内務省令第六號中左ノ通改正シ來ル八月五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年八月一日 内務大臣侯爵西鄉從道

第三條 神社寺院、祠宇、佛堂其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ニシテ寄附金又ハ負債ヲ募集セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項募集ノ區域カニ以上ノ廳府縣ニ涉ルトキハ神社寺院、祠宇、佛堂及法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條ノ次ニ左ノ四條ヲ加ヘ以下順次繰下

第四條 神社寺院、祠宇、佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル團體ノ用ニ供スル爲メ寄附金募集ヲ爲ス者亦前條ニ同シ

第五條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記シタル願書ヲ差出スヘシ

一 募集ノ目的

二 募集ノ方法

三 募集ノ金額

四 募集ノ區域

五 募集ノ期間

六 前各號ニ掲グルモノ、外負債ニ付テハ利率及償還ノ方法

第六條 前條各號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第七條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其募集ニ從事セシメムトスルトキハ其住所氏名職業年齢ヲ記シタル願書ヲ差出シ募集地地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條ヲ左ノ通改ム

第八條 第一條乃至第四條第六條及第七條ニ違背シタルトキハ神社、寺院、祠宇、佛堂及法人ニアリテハ事務擔當者其他ノ場合ニアリテハ違背者ヲ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加フ

附則

第十條 本令實施前募集ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ其募集ノ完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本令ヲ適用ス

〔參照〕

内務省令第六號(明治三十一年七月七日)抄録

第三條 神社寺院及日佛堂ニシテ寄附金ヲ募集セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ特ニ氏子、檀徒若ハ信徒ノミニ對シ募集スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 前各號ニ違背シタルトキハ神社寺院及佛堂ノ管理者ヲ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○内務省令第二十九號

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十三年八月一日

第一條 宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ設立者ハ定款又ハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

一 宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱

二 儀式及布教ノ方法

三 布教者ノ資格及選定方法
 四 信徒ト法人ノ關係
 五 信徒及社員タルヘキ者ノ員數
 六 宗教ノ用ニ供スル堂宇教會所會堂説教所又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在テハ其名稱所
 在地及設立許可ノ年月日
 第二條 前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ
 第三條 第一條ノ法人カ第一條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受
 クヘシ
 前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 第四條 本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ凡テ
 管長ノ添書ヲ付スヘシ
 ○内務省令第四十號
 治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム
 明治三十三年八月七日 内務大臣 侯爵西鄉從道
 土方稼八炭坑稼八仲仕稼八ハ山口縣下厚狹郡豊浦郡及赤間關市ニ於テ戎器爆發物又ハ戎器ヲ仕込
 ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帯スルハ此ノ限
 ニアラス

○大藏省令第三十一號

明治三十三年大藏省令第十五號中左ノ通追加ス

明治三十三年八月二日

大藏大臣 伯爵松方正義

第七條 建物使用ノ期間一箇月以上ナル場合ニハ其ノ使用料ハ一箇月毎ニ納メシムルコトヲ得
 第八條 税關假置場法施行規則第四條ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請スル者ハ一件毎ニ手数料
 金五拾錢ヲ納ムヘシ

〔參照〕

明治三十三年八月九日大藏省令第十五號ハ税關假置場使用料及手数料ノ件ナリ

○陸軍省令第二十三號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通改正シ本月八日ヨリ施行ス

明治三十三年八月三日

陸軍大臣 子爵桂 太郎

第十憲兵隊舞鶴憲兵分隊ノ區畫中「舞鶴町」ヲ總テ「餘内村」ニ改ム

○陸軍省令第二十四號

陸軍埋葬規則中左ノ通改正ス

明治三十三年八月十八日

陸軍大臣 子爵桂 太郎

第一條中「臺灣ニ在職スル者」並「ヲ削ル」
 第四條 死體ハ陸軍埋葬地ニ葬ルニ在テ死ハセシ者ルヘシ若シ遺言シテ陸軍埋葬地外ニ葬ルヲ
 願ヒ又ハ親族ヨリ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得
 第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 臺灣ニ在リテ死亡シ若ハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ遺體ハ火葬スルヲ例トス

第八條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ假葬ノ場合及臺灣ニ在リテハ適宜ニ其尺度形状ヲ變スルコトヲ得
第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
臺灣ニ在リテハ適宜前二項ノ規定ヲ變スルコトヲ得

第十八條第一項中「二日」ヲ「二日」下ニ「臺灣ニ在リテ死亡セシムル者ノ遺骨還裝ハ四十日」ヲ加フ

〔参照〕

陸軍省令第二十二號陸軍埋葬規則(明治三十年八月十七日)抄録

第一條 在隊在職陸軍軍人軍屬並に在郷軍人召集中死亡シタルモノ、埋葬ハ本規則ノ定ムル所ニ據ル但臺灣ニ在職スル者並に海外ニ搬送スル者ヲ除クノ外將校准士官ヲ除キ、並營外居住ノ下士兵卒職工及軍屬ハ特ニ規定ナキモノハ本規則ヲ適用セス

第四條 死體ハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ若シ遺言シテ陸軍埋葬地外ニ葬ルヲ願ヒ又ハ親族ヨリ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第五條第二項

傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ遺體ハ火葬スルヲ例トス

第八條 墳墓ニハ墓標ヲ建設ス其寸法ハ第二表ニ據ル但假葬ニ在テハ適宜ニ其尺度ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條 將校准士官ヲ除クノ外埋葬後十年ヲ經タルモノハ之ヲ合葬スルコトヲ得
前項ニ據リ合葬シタルトキハ在來ノ墓標ヲ合葬地ニ並列ス但合葬ノ爲メ更ニ墓標ヲ建設ヲ要スルモノハ表面ニ陸軍軍人(軍屬)合葬之墓ト記シ右側ヨリ背面ニ進メ官位勳功爵氏名ヲ列記シ其各氏名ノ左傍ニ死亡ノ年月日ヲ記シ左側面ニハ何年何月何日建ト記スルモノトス

第十八條 死亡シタル者アルトキハ本人所屬部隊校團等ヨリ其病狀並に死亡時刻ヲ勉メテ急遽ニ親族へ通報シ若シ死體ノ引受ヲ願フモノハ死亡ノ日ヨリ二日以内ニ死者所屬ノ部隊及校團等ニ願出ツヘキ旨ヲ告ケ其期日內ニ願出サルトキハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ

○陸軍省令第二十五號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通改正シ本年九月十五日ヨリ施行ス
明治三十三年八月三十日 陸軍大臣子爵桂 太郎
第七憲兵隊ノ區畫ヲ左ノ如ク改ム

第七		第八	
目	町	東	通
館	函	川	旭
町	區	村	國
區	館	川	旭
町	區	村	國
館	函	川	旭
町	區	村	國
區	館	川	旭
町	區	村	國
館	函	川	旭
町	區	村	國
區	館	川	旭
町	區	村	國

○司法省令第三十一號

宇都宮地方裁判所管内宇都宮區裁判所鹿沼出張所管轄下野國上都賀郡南摩村ヲ同區裁判所口栗野出張所ノ管轄ニ改メ神戶地方裁判所管内豐岡區裁判所國府出張所管轄但馬國城崎郡中筋村三根村

明治三十三年八月 省令 陸軍省第二十五號 司法省第三十一號

ヲ同區裁判所ノ管轄ニ改メ和歌山地方裁判所管内新宮區裁判所三尾川出張所管轄紀伊國東牟婁郡小川村ヲ同區裁判所古座出張所ノ管轄ニ改メ秋田地方裁判所管内能代區裁判所二ツ井出張所管轄羽後國山本郡常盤村ヲ同區裁判所ノ管轄ニ改メ青森地方裁判所管内弘前區裁判所管轄陸奥國南津輕郡石川村大字石川、大澤、森山ヲ同區裁判所藏館出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十三年八月四日

司法大臣清浦奎吾

地方裁判所	區裁判所	出張所	管轄
和歌山新宮	鹿沼	下野	上都賀郡ノ内 鹿沼町 菊池村 板宿村 落合村 北犬飼村 南押原村 北押原村 西方村
神戶豐岡	口栗野	下野	上都賀郡ノ内 栗野村 清洲村 永野村 粕尾村 眞名子村 南慶村
和歌山新宮	古座	紀伊	東牟婁郡ノ内 古座村 田原村 高池村 西向村 明神村 小川村
和歌山新宮	三尾川	紀伊	東牟婁郡ノ内 三尾川村 佐木村 七川村
秋田能代	二ツ井	羽後	山本郡ノ内 能代港町 柳村 鶴形村 東雲村 常盤村 山本郡ノ内 二ツ井村 荷揚場村 宮根村 藤栗村 粕毛村 種梅村
青森森	藏館	陸奥	弘前市 中津輕郡ノ内 和徳村 清水村 西目屋村 藤ノ代村 大浦村 船澤村 相馬村 駒越村 岩木村 南津輕郡ノ内 藏館村 大鐔村 碓ヶ関村 石川村

○司法省令第三十二號

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付司法大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通テ差出スヘシ其許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ヨリ司法大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

明治三十三年八月十日

司法大臣清浦奎吾

○司法省令第三十三號

大分地方裁判所管内大分區裁判所中川出張所ヲ豊後國速見郡南由布村大字川南ニ移シ川南出張所

明治三十三年八月 省令 司法省第三十二號 第三十三號

ト改稱ス

本令ハ明治三十三年八月二十五日ヨリ施行ス

明治三十三年八月二十一日

司法大臣清浦奎吾

○文部省令第十三號

明治二十七年文部省令第十八號高等學校ニ設置スル大學預科ノ學科規程ヲ左ノ通改正ス
明治三十三年八月四日 文部大臣伯耆樺山資紀

高等學校大學預科學科規程

第一條 高等學校大學預科ノ學科ヲ分チテ第一部、第二部及第三部トス

第一部ノ學科ハ法科大學及文科大學志望者ニ、第二部ノ學科ハ工科大學、理科大學、理工科大學及農科大學志望者ニ、第三部ノ學科ハ醫科大學志望者ニ課スルモノトス

第二條 第一部ノ學科ハ倫理、國語及漢文、外國語、歷史、論理及心理、法學通論、體操トス

前項ノ學科ノ外文科大學志望者ニハ經濟通論ヲ課ス

前二項ノ學科中文科大學哲學科志望者ニハ論理及心理ヲ缺キ數學、物理ヲ課ス

外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中ニ就キ二種ヲ選ハシム

第一項ノ學科ノ外法科大學志望者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得

第三條 第二部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、數學、物理、化學、地質及礦物、圖書體操トス

前項ノ學科ノ外理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學志望者ニハ動物及植物ヲ課シ、工科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、電氣工學科、採鑛及冶金學科、理工科大學ノ造

船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニハ測量ヲ課ス

外國語ハ英語ノ外、獨語又ハ佛語ヲ選ハシム但シ工科大學及理工科大學ノ電氣工學科、應用化學科、製造化學科、採鑛及冶金學科並ニ農科大學志望者ハ必ス獨語ヲ選フヘキモノトス

第一項ノ學科ノ外理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ獸醫學科志望者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得

第四條 第三部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、羅旬語、數學、物理、化學、動物及植物體操トス

外國語ハ獨語ノ外、英語又ハ佛語ヲ選ハシム

第五條 各部各學科ノ每週授業時數ハ左ノ如シ

第一部

學科	年	第一	第二	第三
倫理	年			
國語及漢文	年	六	五	四
英語	年	(九)	(九)	(八)
獨語	年	(九)	(九)	(八)
佛語	年	(九)	(九)	(八)
歷史	年	三	三	三
倫理及心理	年		二	

法學通論			
經濟通論			
體操	三		
計	三〇	三二	三二
		三	三
			(二)
		二九	二
		三二	

備考

表中○ハ選擇科目ノ時數ヲ表シ○ハ文科大學志望者ニノミ課スル時數ヲ表ス

文科大學哲學科志望者ニハ第三年ニ於テ國語ヲ缺ク且之ニ課スヘキ數學、物理ノ授業時數左ノ如シ

學年	第一年	第二年	第三年
數學		二	
物理			二

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ獨逸法又ハ佛蘭西法ヲ選修スル法律學科並ニ文科大學ノ獨逸文學科、佛蘭西文學科ニ志望スル者ニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

學年	第一年	第二年	第三年
英語	四	四	四
獨語又ハ佛語	一四	一四	二二

隨意科トシテ法科大學志望者ニ課スヘキ羅匈語ノ授業時數左ノ如シ

第二部

學科	學年	第一年	第二年	第三年
羅匈語				二
倫理		三		一
國語		八	七	四
英語		八	七	四
獨語又ハ佛語		八	七	四
數學		五	四	六
物理			三	三
化學			三	三
地質及礦物學			三	五
圖畫		四	四	二
體操		三	三	二
計		三一	三一	三〇

第三年ニ於テ理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、獸醫學科志望者ニハ數學ヲ缺キ工科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、工科大学ノ造船學科

建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科及理科大學ノ星學科志望者ニハ化學ノ實驗ヲ缺キ理科大學ノ各學科、理工科大學ノ數學科、物理學科、純正化學科及農科大學志望者ニハ圖畫ヲ缺キ農科大學林學科志望者ニハ英語ヲ缺ク
理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學志望者ニ課スヘキ動物及植物ノ授業時數左ノ如シ

學科	年		
	第一	第二	第三
動物及植物	四		

工科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、電氣工學科、探礦及冶金學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニ課スヘキ測量ノ授業時數左ノ如シ

學科	年		
	第一	第二	第三
測量	三		

隨意科トシテ理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ獸醫學科志望者ニ課スヘキ羅旬語ノ授業時數左ノ如シ

羅旬語	年		
	第一	第二	第三
羅旬語	二		

第三部

學科	年		
	第一	第二	第三
倫理	一		
國語	三		
英語又ハ佛語	三	三	三
羅旬語	三		二
數學	三	二	
物理學		三	三
化學		三	三
動物及植物	四	三	三
體操	三	三	三
計	二九	三〇	三一

獨語ヲ以テ入學シタル者ニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

學科	年		
	第一	第二	第三
獨語	九	九	八
英語又ハ佛語	七	七	五

第六條 前條ノ各學科ハ生徒卒業後分科大學各學科ノ授業ヲ受クルニ足ルヘキ豫備ノ程度ヲ以テ標準トナスヘシ

第七條 學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ分科大學某科志望者ニ課スヘキ一學科若ハ數學科ヲ其學校ニ置カサルコトヲ得

附則

第八條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス

第九條 本令施行ノ際現ニ第二年又ハ第三年ノ課程ヲ修ムル者ニ就キテハ其卒業ニ至ルマテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ舊規程ニ依リ若ハ新舊ノ規程ヲ斟酌シテ之ヲ教授スルコトヲ得

○文部省令第十四號

小學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十三年八月二十一日

文部大臣 伯耆權山資紀

小學校令施行規則

第一章 教科及編制

第一節 教科

第二節 學年、休業日及式日

第三節 編制

第四節 補習科

第五節 圖書審查及採定

第二章 設備準則

第三章 就學

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第二節 教員ノ免許狀

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第五節 代用教員

第六章 授業料

第七章 學務委員

第八章 代用私立小學校

第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第十章 附則

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

明治三十三年八月 省令 文部省第十四號 小學校令施行規則

道徳教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ビテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコト
ヲ務ムヘシ

兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發達
ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各々適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道徳ノ實踐ヲ指導スルヲ以
テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌、親愛、勤儉、恭敬、信實、義勇等ニ就キ實踐ニ適切ナル近易ノ事項ヲ
授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル義務ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取
ノ氣象ヲ長シ公德ヲ尙ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養ハントコトヲ務ムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ功ヲ堅實ナラシメンコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハントニ注意スヘシ

修身ヲ授クルニハ嘉言善行及諺辭等ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシメンコトヲ務ムヘシ

第二條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ
兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常
須知ノ文字及近易ナル普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ稍進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方
ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ

讀ミ方書キ方、綴リ方ハ各々其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シ
テ相聯絡セシメンコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ
其ノ材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取リ趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ

文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必
須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナラントコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書行書ノ一種若ハ二種トス

國語ヲ授クル際ニハ常ニ其ノ意義ヲ明瞭ニシ且既修ノ文字ヲ以テ通常ノ人名、地名等ニ應用セ
シメ單語、短句、短文ヲ書取ラシメ若ハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務
ムヘシ

他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習ニ注意シ又文字ヲ書カシムルトキハ其ノ字形及
字行ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

第四條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ
以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方、書キ方及加減乗除ヲ授ケ漸ク其
ノ範圍ヲ擴メテ百以下ノ數ニ及ホシ更ニ進ミテ通常ノ加減乗除竝ニ小數ノ呼ビ方、書キ方及簡

易ナル加減ヲ授ケ漸次本邦度量衡貨幣及時ノ制ノ大要ヲ授クヘシ
 高等小學校ニ於テハ初ハ尋常小學校ニ於テ授ケタル事項ヲ擴メテ學習セシメ漸ク進ミテハ簡易
 ナル小數、分數及比例ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍、複雜ナル比例及日常適切ノ百分
 算ニ及ホシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル求積若ハ日用簿記ノ大要ヲ授ケ又ハ之ヲ併セ授クヘ
 シ
 算術ハ筆算ヲ用フヘシ土地ノ情況ニ依リテハ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得
 算術ヲ授クルニハ理會ヲ精確ニシ運算ニ習熟シテ應用自在ナラシメンコトヲ務メ又運算ノ方法
 及理由ヲ正確ニ説明セシメ且暗算ニ習熟セシメンコトヲ要ス
 算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ナルモノヲ選フ
 ヘシ

第五條 日本歴史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス
 日本歴史ハ建國ノ體制皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來、外
 國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ知ラシムヘシ
 日本歴史ヲ授クルニハ成ルヘク圖畫、地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラ
 シメ特ニ修身ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス
 第六條 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ又本邦國勢ノ大要ヲ理
 會セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス
 地理ハ本邦ノ地勢、氣候、區劃都會、產物、交通等竝ニ地球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ又學
 校ノ修業年限ニ應シ各大陸ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要

ナル諸國ノ都會、產物等ヲ知ラシメ且本邦ノ政治經濟上ノ狀態竝ニ外國ニ對スル地位等ノ大要
 ヲ授クヘシ
 地理ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又地球儀、地圖、標本、寫眞等ヲ示シテ確實ナル知識
 ヲ得シメ特ニ歴史及理科ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス
 第七條 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及人生ニ對スル
 關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス
 理科ハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目擊シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル
 植物、動物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ通常ノ物理化
 學上ノ現象、重要ナル元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衛生ノ大要ヲ授ケ兼テ
 植物、動物、礦物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシムヘシ
 理科ニ於テハ務メテ農事、水産、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ特ニ植物、動物等ニ就キ教授ス
 ル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ
 理科ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施
 シ明瞭ニ理會セシメンコトヲ要ス
 第八條 圖畫ハ通常ノ形態ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス
 尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形態ニ及ホシ時々直線、曲
 線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシムヘシ
 高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ實物若ハ手本ニ就キ又時々自己ノ工夫
 ヲ以テ畫カシムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得

圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目撃セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハントニ注意スヘシ

第九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ譜表ヲ用フルコトナク平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク譜表ヲ用ヒテ單音唱歌ヲ授クヘシ

歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

第十條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ適宜ニ遊戲ヲ爲サシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ普通體操ヲ授ケ又遊戲ヲ爲サシメ男兒ニハ兵式體操ヲ加ヘ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リ體操ノ教授時間ノ一部若ハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲ爲サシメ又水泳ヲ授クルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメントヲ務ムヘシ

第十一條 裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁チ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ運針法ヨリ始メ漸ク簡易ナル衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ又便宜通常ノ衣類ノ縫ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方ヲ授クヘシ

授クヘシ

裁縫ハ其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取り之ヲ授クル際用具ノ使用方、材料ノ品類、性質及衣類ノ保存方、洗濯方等ヲ教示スヘシ

第十二條 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ
手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類、性質等ヲ教示スヘシ

第十三條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授クヘシ

水産ヲ加フルトキハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ其ノ土地ノ業務ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其ノ知識ヲ確實ナラシメントヲ務ムヘシ

第十四條 商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

商業ハ學校所在ノ地方ニ於ケル賣買、金融、運輸、保險其ノ他商業ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ選ビ國語、算術、地理、理科等ノ教授事項ト關聯レテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十五條 英語ハ簡易ナル會話ヲ爲シ又近易ナル文章ヲ理解スルヲ得シメ處世ニ資スルヲ以テ要

旨トス

英語ハ發音ヨリ始メ進ミテ單語、短句及近易ナル文章ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方竝ニ話シ方ヲ授ク
ヘシ
英語ノ文章ハ純正ナルモノヲ選ビ其ノ事項ハ兒童ノ知識ノ程度ニ伴ヒ趣味ニ富ムモノタルヘ
シ
英語ヲ授クルニハ常ニ實用ヲ主トシ又發音ニ注意シ正シキ國語ヲ以テ譯解セシメンコトヲ務ム
ヘシ

第十六條 小學校ニ於テ教授ニ用フル假名及其ノ字體ハ第一號表ニ、字音假名遣ハ第二號表下欄
ニ依リ又漢字ハ成ルヘク其ノ數ヲ節減シテ應用廣キモノヲ選フヘシ
尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ハ成ルヘク第三號表ニ掲グル文字ノ範圍内ニ於テ之ヲ選フ
ヘシ

第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ但シ土地ノ情況
ニ依リ學校長ニ於テ體操ノ每週教授時數中ヨリ一時ヲ減スルコトヲ得
圖畫唱歌、手工、裁縫ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ
教科目ノ每週教授時數中ヨリ四時以下ヲ減シ之ニ充ツヘシ
半日小學校ノ教科目ノ每週教授時數ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第十八條 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第五號表乃至第七號表ニ依ルヘシ
理科、唱歌ノ一科目若ハ二科目ヲ關クトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配

當スルコトヲ得

手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ
教科目中ノ每週教授時數中ヨリ二時ヲ減シ之ニ充テ尙不足スルトキハ男兒ニ限リ每週教授時
數ニ二時ヲ加ヘ之ニ充ツヘシ

第十九條 前二條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ其ノ事情ヲ具シ府縣知事
ノ認可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ其ノ時數ヲ増減スルコトヲ得

一 尋常小學校ノ每週教授時數ハ二十八時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス但シ半日小學校ニ
在リテハ此ノ限ニアラス

二 高等小學校ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超エ又二十四時ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條 學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ
得

前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌ス
ヘシ

第二十一條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ
程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フル
コトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタ

ル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節 學年、休業日及式日

第二十五條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

小學校ノ學期ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十七條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

- 一 祝日、大祭日
- 二 日曜日
- 三 夏季休業日
- 四 冬季休業日
- 五 學年末休業日
- 六 其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十八條 紀元節、天長節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

- 一 職員及兒童、若カ代ヲ合唱ス
- 二 職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在所ヲ誨告ス

五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク又唱歌ヲ課セサル學校ニ於テハ

第一號及第五號ノ式ヲ闕クコトヲ得

第三節 編制

第二十九條 小學校ノ學級數ハ十二學級以下トス

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ二學級以下トシ前項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十八以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各十人マテヲ増スコトヲ得

第三十一條 尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

第三十二條 正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十三條 修身、體操、唱歌、裁縫又ハ手工ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テハ兒童ヲ二部ニ分チ其ノ一部ノ教授了リタル後他ノ一部ヲ教授スルコトヲ得

一 兒童ノ數七十人以上百四十人未滿ニシテ本科正教員一人及准教員一人ヲ置クコト能ハサルトキ

二 兒童ヲ同時ニ容ル、ニ足ルヘキ校舍ノ設ナキトキ

前項ノ場合ニ於テハ毎日ノ教授時數ヲ各部三時以上トス但シ年少ノ部ニ在リテハ之ヲ二時ト爲スコトヲ得

第三十五條 小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ

小學校ニ於テ各學級ニ置クヘキ本科正教員ヲ得難キトキハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ准教員ハ正教員ノ指揮ヲ承ケ兒童ヲ教授スヘシ

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ル外尙准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得

第三十六條 六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若ハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條 小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得

第三十八條 補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外トス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級小學校トス

第三十四條ノ規定ニ依リ兒童ヲ二部ニ分テ教授スル學校ヲ半日小學校トス

第四十條 第三十二條但書ノ規定ニ依リ正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルトキ及第三十四條ノ規定ニ依リ半日小學校ヲ設クルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村

又ハ町村學校組合ニ於テ、代用私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ遲滞ナク管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第四節 補習科

第四十二條 補習科ハ分テ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス

尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第四十三條 補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四十四條 補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條 補習科ノ教科ヲ授クルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項ヲ交フヘシ

第四十六條 補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ム

第四十七條 補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ選ビテ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 補習科ノ教授日及教授時間ハ兒童ノ便宜ヲ圖リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ム

補習科ノ每週教授時數ハ三時以上十二時以下トス但シ裁縫ノ爲ニハ尙每週十二時以下ニ於テ教授時數ヲ増スコトヲ得

第四十九條 高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコトヲ得ス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十條 補習科ノ教場ハ正教科ヲ授クル校舎外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 第四十三條第一項 第四十四條 第四十六條及第四十八條第一項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 小學校圖書審查委員會ノ開閉ハ府縣知事之ヲ命ス

第五十四條 小學校圖書審查委員ハ職務上當然委員タル者ヲ除ク外小學校圖書審查委員會開會毎

ニ府縣知事之ヲ命ス

第五十五條 小學校圖書審查委員會ニ會長ヲ世キ府縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

會長ハ會務ヲ整理シ審査ノ顛末ヲ府縣知事ニ報告ス

第五十六條 小學校圖書審查委員會ニ書記ヲ置クコトヲ得

書記ハ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五十七條 會長委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十八條 委員ハ自己又ハ親族ノ著作、校閱、出版ニ係ル圖書ノ審査ニ參與スルコトヲ得ス

第五十九條 小學校圖書審查委員會ハ其ノ地方ノ情況ニ適當ナル圖書ヲ選定スヘシ

小學校教科用圖書ハ學校ノ種類、男女ノ區別又ハ學校所在地ノ情況ニ依リ各別ニ之ヲ選定スル

コトヲ得

第六十條 府縣知事ニ於テ小學校圖書審查委員會ノ選定シタル圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使

用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日以前ニ其ノ旨ヲ公布スヘシ此ノ場合ニ於テハ五日以内ニ文

部大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第六十一條 府縣知事ニ於テ小學校令第二十五條ノ規定ニ依リ一部修正ノ圖書ニ採定ノ效力ヲ繼

續セシメタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ報告スヘシ

第六十二條 府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ノ定價増加シタルトキハ其ノ採定ハ効

力ヲ失フ

第六十三條 小學校教科用圖書ハ採定後四箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ更定スルコトヲ得ス
小學校教科用圖書ヲ更定シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ
兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ發用セシムヘシ

第二章 設備準則

第六十四條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ
便利ナル場所ヲ選フヘシ

校地ハ道徳上嫌忌スヘキ場所喧鬧ニシテ教授ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近セサルコト
ヲ要ス

第六十五條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ其ノ面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合
トス
- 二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上
ノ割合トス
- 三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教
科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上、高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ
割合トス但シ兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿ナルトキハ百五
十坪ノ外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

四 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ二坪マテニ減スルコトヲ得
屋内體操場ハ雨雪ニ堪フヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス
屋内體操場ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第六十六條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ

第六十七條 校舍ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ナランコトヲ要ス
校舍ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得

第六十八條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室並ニ教員室ヲ設クヘシ

前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要ナル場合ニ於テハ講堂、
兒童控所、宿直室、湯沸所、小使室、物置等ヲ設クヘシ

第六十九條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下、單級小學校ノ教室ハ幅及長各四
間以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス
天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ
牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ
採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分の一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁
ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ
代フルコトヲ得
窓ハ兒童座席ノ前面ニ設クルコトヲ得ス
教室内ノ壁ハ灰色、淡黃色其ノ他ノ中性色ト爲スヘシ

土地ノ情況ニ依リ成ルヘク暖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ
各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ

第七十條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅ハ六尺以上タルヘシ

二階造ノ校舎ニハ二箇以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス

階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ

第七十一條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ

第七十二條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ又井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

糞壺、尿溝、注壁等ハ不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス

第七十三條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、地圖、度量衡、黑板、机、腰掛、時計、塞暖計其ノ他必要ナル器具、參考用圖書及小學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ外歴史、地理及理科ノ教授用具、體操器械、中學校、高等女學校及實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

第七十四條 兒童用机及腰掛ノ寸法ハ第八號表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメンコトヲ要ス

第七十五條 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第七十六條 校舎ヲ新築、増築、改築シ若ハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七十七條 本章ノ規定中校舎ノ新築、改築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得

第七十八條 土地ノ情況ニ依リ本章ノ規定ニ依リ難キトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十九條 本章ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

第三章 就學

第八十條 市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ様式ニ依リ毎年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條 市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滞ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ抹消スヘシ

一 兒童死亡シタルトキ

二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ

三 兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ

前二項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第八十二條 市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ區ノ使用ニ係ル尋常小學校ニ二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第八十三條 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第八十四條 就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ掲グル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ因ル場合ヲ除ク外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第八十五條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス

第八十六條 市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試驗ヲ行フコトヲ得

第八十七條 市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認メタルトキハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

第八十八條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシム又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其ノ學

校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第八十九條 市町村立尋常小學校長ハ第十號表ノ様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ

學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第九十條 市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第九十一條 市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十二條 在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滞ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十三條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第九十四條 郡長又ハ府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第九十五條 市町村立尋常小學校長ハ每學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滞ナク關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十六條 第八十八條ノ規定又ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ

學校以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教科ヲ卒リタルトキ又ハ其ノ教科ヲ卒ラスシテ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第九十七條 本章ニ於テ市町村立尋常小學校トアルハ代用私立尋常小學校ヲ包含ス

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第九十八條 小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 會長
- 一 常任委員
- 一 臨時委員

第九十九條 會長ハ府縣視學官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第一百條 會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第一百一條 小學校教員檢定委員會ニ書記ヲ置キ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第一百二條 會長常任委員臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第一百三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

一 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

一 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

一 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第一百五條 教員ノ檢定ハ分テ無試験檢定及試験檢定トス

第一百六條 試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

第一百七條 無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第八條乃至第一百二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二 他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シテ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者

五 高等女學校ヲ卒業シタル者

六 其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第一百八條 小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在

リテハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準ス但シ圖畫音樂手工農業商業英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得
本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第九條 小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ裁縫ハ女子ニ限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、比例、百分算

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操ノ初歩

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

圖畫、唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ闕キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ
第十條 小學校專科正教員ノ試験科目ハ圖畫、音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ

數科目トス其ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度ニ準ス

前項ニ規定シタル科目ノ試験ハ受験科目ノ教授法ヲ附帶シテ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試験ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有

スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス

本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ

者ヲ謂フ

第十一條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ師範學校簡易科ノ學科程度ニ準ス但

シ漢文、圖畫、音樂ノ一科目若ハ數科目ヲ闕キ數學ハ算術、歴史ハ日本歴史ニ限ルコトヲ得又女子

ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得

女子ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得其ノ程度ハ通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方トス

第十二條 尋常小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、單比例

歴史、地理 日本歴史及日本地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ初歩

圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操

理科、圖畫、唱歌ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得

第百十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試驗ヲ關クコトヲ得

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二 他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 小學校教員免許狀又ハ小學校師範學科卒業證書ヲ有シ其ノ有効期間滿チタル者

五 小學校教員講習科ヲ卒業シタル者

六 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認

メタル學校ヲ卒業シタル者

七 高等女學校ヲ卒業シタル者

第百十四條 試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルト

キハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ二箇年以内ニ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ關ク

第百十五條 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二節 教員ノ免許狀

第百十六條 府縣知事又ハ文部省直轄學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ普通免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スルコトヲ得

一 小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在リ成績佳良ナル者

二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者

第百十七條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員府縣免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

第百十八條 府縣知事ニ於テ第百七條第六號ニ該當スル者ニ小學校正教員免許狀ヲ授與セントス

ルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第百十九條 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第百二十條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣又ハ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ普通免許狀ニ就キテハ金壹圓

府縣免許狀ニ就キテハ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

普通免許狀ノ書換若ハ再渡ニ關スル手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第百二十一條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ文部大臣又ハ府

縣知事之ヲ公告ス

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第二百二十二條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

一 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二 學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三 教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ

第二百二十三條 市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ陸軍十六週間現役ニ服スル者ハ此ノ限ニアラス

第二百二十四條 休職ノ期間ハ第二百二十二條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第二百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

第二百二十五條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第二百二十六條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一 不具廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三 休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第二百二十七條 第二百二十二條又ハ第二百二十六條ノ事由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第二百二十八條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該學校ノ廢セラレタルトキ

二 休職期間滿チタルトキ

第二百二十九條 市町村立小學校教員ニシテ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第二百三十條 市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第二百三十一條 第二百二十二條第一號、第二百二十六條第一號及第二號前段ノ事由ニ因リ處分セントスルトキハ府縣知事ハ其ノ府縣恩給顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第二百三十二條 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第二百三十三條 學校長及教員ノ職務及服務

第二百三十四條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

ニ服スヘシ

第三百三十五條 正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第三百三十六條 准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第三百三十七條 市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村ニ居住スヘシ但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第三百三十八條 學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 懲戒處分業務停止及免許狀褫奪

第三百二十九條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第三百四十條 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第三百四十一條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第三百四十二條 市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第三百四十三條 市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ

教員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第四百十四條 第三百二十九條乃至第四百十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第四百十五條 私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第四百十六條 府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第四百十七條 府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改換ノ實顯著ナリト認メタル者ニハ第四百十三條ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第四百十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ本科正教員及准教員ノ俸給額ハ明治三十年勅令第二號第六條ノ金額マテニ減スルコトヲ得

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級		九級		十級		
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
本科正教員	七十五圓	六十五圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓	一圓
專科正教員	六十五圓	五十五圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓	一圓	一圓
准教員	三十五圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓	一圓

第四百四十九條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトヲ得
 第五百十條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得
 第五百十一條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得
 第五百十二條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス
 第五百十三條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ府縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトヲ得
 第五百十四條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第五百十五條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得
 第五百十六條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ
 一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ
 二 免許狀被奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ
 第五百十七條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ
 第五百十八條 正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ
 第五百十九條 教員ニシテ一週三十時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ
 第六十條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第六十一條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ
 第六十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ
 第六十三條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ
 第六十四條 第五百十九條及第六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第六十一條乃至第六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ
 第六十五條 本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ
 第六十六條 第四百十八條ニ掲グル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
 第六十七條 本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ
 第五節 代用教員
 第六十八條 代用教員ノ進退ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ
 第六十九條 市町村立小學校代用教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ懲戒處分ヲ行フヘシ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス
 懲戒處分ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ
 第七十條 代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ郡市長又ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ

報告スヘシ

第七十一條 小學校令第四十七條ノ規定並ニ本令第五章第一節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ
 代用教員ニ準用ス
 第七十二條 府縣知事ニ於テ代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得
 第七十三條 市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ
 定ム

第六章 授業料

第七十四條 尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町村又ハ町
 下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ
 受ケヘシ
 第七十五條 高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市ニ在リテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町
 村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ
 第七十六條 特別ノ事情アル市町村又ハ町村學校組合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ期限ヲ定
 メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得
 第七十七條 小學校補習科ノ授業料額ハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第七十八條 小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ス
 第七十九條 他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第七十四條及第七十
 五條ノ制限以內ニ於テ授業料額ヲ増スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、町村學
 校組合又ハ區ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニアラス

第八十條 貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一
 部ヲ免除スヘシ

第八十一條 本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

第七章 學務委員

第八十二條 市町村、町村學校組合並ニ區ノ學務委員ハ十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ十
 五人マテニ増スコトヲ得

第八十三條 學務委員ハ左ニ掲グル事項ニ就キ市長、市參事會、町村長、町村學校組合長、區長並ニ
 其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス

- 一 就學督促ニ關スルコト
- 二 家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト
- 三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト
- 四 設備ニ關スルコト
- 五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト
- 六 授業料ニ關スルコト
- 七 學校基本財産ニ關スルコト
- 八 教科目ノ加除ニ關スルコト
- 九 修業年限ニ關スルコト
- 十 補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

十一 私立尋常小學校代用ニ關スルコト

第百八十四條 公民中ヨリ選舉セラレタル學務委員ノ任期ハ四箇年トス
補選選舉ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第百八十五條 學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 代用私立小學校

第百八十六條 市ハ其ノ區域内ニ在ル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ニ代用セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

町村又ハ町村學校組合ハ其ノ區域内ニ在ル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ニ代用セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第百八十七條 前條ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ左ノ事項ニ就キ私立小學校設立者ト協議ヲ遂ケ監督官廳ニ具申スヘシ

一 代用ノ期間

二 入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員

三 授業料ヲ徵收セントスルトキハ其ノ金額

四 補助金ヲ給スルトキハ其ノ金額

五 其ノ他必要ノ事項

前條ノ認可ヲ受ケタル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ就キ更ニ認可ヲ受クヘシ

第百八十八條 代用ノ期間ハ四箇年ヲ超過スルコトヲ得ス但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新ス

ルコトヲ得

第百八十九條 私立尋常小學校ニシテ教授上、管理上、衛生上適當ナル設備ヲ具ヘ成績佳良ナルモノニアラサレハ之ヲ代用私立小學校ト爲スコトヲ得ス

第百九十條 左ノ場合ニ於テハ代用私立小學校設立者ハ市町村長又ハ町村學校組合ノ承認ヲ受ルコトヲ要ス

一 高等小學校ノ教科ヲ併置シ若ハ之ヲ廢止セントスルトキ

二 補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止セントスルトキ

三 補習科ノ兒童ヲ正教科ノ兒童ト合シテ學級ヲ編制セントスルトキ

四 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ

五 半日小學校ニ編制セントスルトキ

六 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第百九十一條 左ノ場合ニ於テハ代用私立小學校設立者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一 尋常小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サントスルトキ

二 學校長教員又ハ代用教員ヲ採用若ハ解職セントスルトキ

第百九十二條 小學校令第五十七條ノ規定竝ニ本令第百七十四條、第百七十六條、第百七十八條乃至第百八十條ノ規定ハ代用私立小學校ニ關シ之ヲ準用ス

第百九十三條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ不利ナリト認メタルトキハ其ノ代用ノ認可ヲ取消スヘシ

第九十四條 私立小學校ノ代用ヲ止メントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上三十日以前ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第九十五條 幼稚園ハ滿三歳ヨリ尋常小學校ニ入學スルマテノ幼兒ヲ保育スルヲ以テ目的トス

第九十六條 幼兒ヲ保育スルニハ其ノ心身ヲシテ健全ニ發達セシメ善良ナル習慣ヲ得シメ以テ家庭教育ヲ補ハシコトヲ要ス

幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス

常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメシコトヲ務ムヘシ

第九十七條 幼兒保育ノ項目ハ遊戲唱歌談話及手技トス

第九十八條 遊戲ハ分テ隨意遊戲及共同遊戲トス

隨意遊戲ハ幼兒ヲシテ各自ニ運動セシメ共同遊戲ハ歌曲ニ合ヘル諸種ノ運動等ヲ爲サシメ心情ヲ快活ニシ身體ヲ健全ナラシメンコトヲ要ス

第九十九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱ハシメ聽器發聲器及呼吸器ヲ練習シテ其ノ發音ヲ助ケ

心情ヲ快活純美ナラシメ兼テ徳性ノ涵養ニ資セシメンコトヲ要ス

第一百條 談話ハ有益ニシテ興味アル事實及寓言、通常ノ天然物及加工品等ニ就キテ之ヲ爲シ徳性ヲ涵養シ觀察注意ノ力ヲ養ヒ兼テ發音ヲ正シクシ言語ヲ練習セシメンコトヲ要ス

第一百一條 手技ハ幼稚園恩物ヲ用ヒテ手及眼ヲ練習シ心意ノ發育ニ資セシメンコトヲ要ス

第二百一條 保育ノ時數ハ一日五時以下トス

前項ノ時數ニハ食事時間ヲ包含ス

第二百二條 幼稚園ニ園長ヲ置クコトヲ得

第二百三條 幼稚園ニ於テ幼兒ヲ保育スル者ヲ保母トス

保母ハ女子ニシテ尋常小學校本科正教員又ハ准教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百五條 幼稚園長及保母ノ採用、解職ハ市町村立幼稚園ニ在リテハ府縣知事之ヲ行ヒ私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第二百六條 幼稚園ノ幼兒數ハ百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ百五十人マテニ増スコトヲ得

第二百七條 保母一人ノ保育スル幼兒數ハ四十人以下トス

第二百八條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 建物ハ平家造トシ保育室、遊戲室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フヘシ

二 保育室ノ大ハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナルコトヲ得ス

三 遊園ハ幼兒一人ニ付一坪ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス

四 恩物、繪畫、遊戲道具、樂器、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計、燧房器其ノ他必要ナル器具ヲ備フヘシ

五 敷地、飲料水及採光窓ニ關シテハ小學校ノ例ニ依ルヘシ

第二百九條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第二百十條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者

又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百一十一條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職ニ關シテハ
第二百五條ノ規定ヲ準用ス

第十章 附則

第二百一十二條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ第一章中第一節乃至第四節、第五章
中第四節及第五節第六節、第八章ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百一十三條 小學校ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十四年四月一日
ヨリ五箇年間ハ三學級毎ニ本科正教員一人及准教員二人ヲ置クコトヲ得
既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ抵觸スル場合ニ於テ特別ノ
事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節
ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百一十四條 既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ
就キテハ其ノ兒童ノ修了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百一十五條 本令施行前府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力
ヲ有ス

第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三
十一日マテハ六十日トス

第二百一十六條 本令施行前府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學齡簿及學籍簿ハ第三
章ノ規程ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百一十七條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學校師範學
科卒業證書ハ本令ノ規定ニ依リ小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百一十八條 本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ
依ル

第二百一十九條 市町村立小學校教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治
三十四年三月三十一日マテハ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ依ル

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選舉セラレ任期アル者
ハ任期ノ滿了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一
項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ
抽籤ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條 第八章ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立小學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定
メタル期間ノ滿了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條 既設幼稚園ニシテ第二百六條及第二百八條ノ規定ニ依リ難キトキハ期間ヲ定メ
府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ニ依ラサルコトヲ得

第二百二十三條 明治二十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十
三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十
九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第二十號、同第三十二號、同第三十七號ハ
之ヲ廢止ス

第四號表

科目	年	時數	
		時數	週
修身	第一學年	二	二
	第二學年	二	二
	第三學年	二	二
	第四學年	二	二
國語	第一學年	一〇	二
	第二學年	一〇	二
	第三學年	一〇	二
	第四學年	一〇	二
算術	第一學年	五	二
	第二學年	六	二
	第三學年	六	二
	第四學年	六	二
圖畫	第一學年	四	二
	第二學年	四	二
	第三學年	四	二
	第四學年	四	二
唱歌	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
縫紉	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
手工	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
計			

() 及圖畫以下手工マテ各欄ハ朱書トス

第五號表

科目	年	時數	
		時數	週
修身	第一學年	二	二
	第二學年	二	二
	第三學年	二	二
	第四學年	二	二
國語	第一學年	一〇	二
	第二學年	一〇	二
	第三學年	一〇	二
	第四學年	一〇	二
算術	第一學年	四	二
	第二學年	四	二
	第三學年	四	二
	第四學年	四	二
日本歴史	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
地理	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
理科	第一學年	二	二
	第二學年	二	二
	第三學年	二	二
	第四學年	二	二
圖畫	第一學年	二	二
	第二學年	二	二
	第三學年	二	二
	第四學年	二	二
唱歌	第一學年	二	二
	第二學年	二	二
	第三學年	二	二
	第四學年	二	二
體操	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
縫紉	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
手工	第一學年	三	二
	第二學年	三	二
	第三學年	三	二
	第四學年	三	二
計			

() 及手工ノ各欄ハ朱書トス

第六號表

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	男	女	男	女	男	女
修身	二 道德ノ要旨		二 道德ノ要旨		二 道德ノ要旨	
國語	一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方		一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方		一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方	
算術	四 加減乘除ノ度量衡貨幣及簡易ナル小數		四 小數ノ分數ノ簡易ナル比例ノ加減乘除		四 分數ノ比例ノ百分算ノ珠算ノ加減乘除	
日本歴史	三 日本歴史ノ大要		三 前學年ノ續キ		三 前學年ノ續キ	
地理	三 日本地理ノ大要		三 前學年ノ續キ		三 外國地理ノ大要	
理科	二 植物動物ノ鑛物及自然ノ現象		二 植物動物ノ鑛物及自然ノ現象		二 物理化學上ノ現象ノ元素及化合物ノ簡易ナル器械ノ構造ノ作用ノ人身生理衛生ノ大要	
唱歌	二 單音唱歌		二 單音唱歌		二 單音唱歌	
圖畫	一 二 簡單ナル形體		一 二 簡單ナル形體		一 二 諸般ノ形體	
體操	三 普通體操		三 普通體操		三 普通體操	
器械	三 運針法ノ縫ヒ方		三 通針法ノ縫ヒ方		三 通針法ノ縫ヒ方	
手工	簡易ナル細工		簡易ナル細工		簡易ナル細工	
農業	農事ノ大要		農事ノ大要		農事ノ大要	
商業	商業ノ大要		商業ノ大要		商業ノ大要	
計	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八

第七號表

() 及手工以下商業マテノ各欄ハ朱書トス

科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
修身	二 道德ノ要旨		二 道德ノ要旨		二 道德ノ要旨		二 道德ノ要旨	
國語	一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方		一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方		一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方		一〇 日常須知ノ文字及普通ノ讀ミ方書キ方	
算術	四 加減乘除ノ度量衡貨幣及簡易ナル小數		四 小數ノ分數ノ簡易ナル比例ノ加減乘除		四 分數ノ比例ノ百分算ノ珠算ノ加減乘除		四 比例ノ百分算ノ珠算ノ加減乘除	
日本歴史	三 日本歴史ノ大要		三 前學年ノ續キ		三 前學年ノ續キ		三 日本歴史ノ補習	
地理	三 日本地理ノ大要		三 前學年ノ續キ		三 外國地理ノ大要		三 日本地理及外國地理ノ補習	
理科	二 植物動物ノ鑛物及自然ノ現象		二 植物動物ノ鑛物及自然ノ現象		二 植物動物ノ鑛物及自然ノ現象		二 植物動物ノ鑛物及自然ノ現象	
唱歌	二 單音唱歌		二 單音唱歌		二 單音唱歌		二 單音唱歌	
圖畫	一 二 簡單ナル形體		一 二 簡單ナル形體		一 二 簡單ナル形體		一 二 簡單ナル形體	
體操	三 普通體操		三 普通體操		三 普通體操		三 普通體操	
器械	三 運針法ノ縫ヒ方		三 通針法ノ縫ヒ方		三 通針法ノ縫ヒ方		三 通針法ノ縫ヒ方	
手工	簡易ナル細工		簡易ナル細工		簡易ナル細工		簡易ナル細工	
農業	農事ノ大要		農事ノ大要		農事ノ大要		農事ノ大要	
商業	商業ノ大要		商業ノ大要		商業ノ大要		商業ノ大要	
計	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八	女男三〇八

第八號表

項目	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
理科	植物、動物、礦物及自然現象	植物、動物、礦物及自然現象	同上	通常ノ物理、化學、及化合物、元素、作用、植物、動物、衛生ノ大要	通常ノ物理、化學、及化合物、元素、作用、植物、動物、衛生ノ大要
唱歌	二 單音唱歌	二 單音唱歌	二 單音唱歌	二 單音唱歌	二 單音唱歌
體操	三 普通體操、男兵式體操	三 普通體操、男兵式體操	三 普通體操、男兵式體操	三 普通體操、男兵式體操	三 普通體操、男兵式體操
縫紉	三 運針法、通常ノ衣類ノ縫ヒ方	三 通常ノ衣類ノ縫ヒ方	三 通常ノ衣類ノ縫ヒ方	三 通常ノ衣類ノ縫ヒ方	三 通常ノ衣類ノ縫ヒ方
手工	簡易ナル細工	簡易ナル細工	簡易ナル細工	簡易ナル細工	簡易ナル細工
農業	農事ノ大要、水産ノ大要	農事ノ大要、水産ノ大要	農事ノ大要、水産ノ大要	農事ノ大要、水産ノ大要	農事ノ大要、水産ノ大要
商業	商業ノ大要	商業ノ大要	商業ノ大要	商業ノ大要	商業ノ大要
英語	綴リ方、讀ミ方、話シ方	綴リ方、讀ミ方、話シ方	綴リ方、讀ミ方、話シ方	綴リ方、讀ミ方、話シ方	綴リ方、讀ミ方、話シ方
計	三三八 女三二〇	三三八 女三二〇	三三八 女三二〇	三三八 女三二〇	三三八 女三二〇

第九號表

明治三十三年八月 省令 文部省第十四號 小學校令施行規則

第八號表

第九號表

姓名	住所	生年月	學齡	項目				
				身長	机ノ高	机ノ幅	机ノ長	机ノ寬
姓名	住所	生年月	學齡	身長	机ノ高	机ノ幅	机ノ長	机ノ寬
				一〇〇〇	一五五〇	一三〇〇	一八〇〇	一〇〇〇
				一〇八〇	一七〇〇	一四〇〇	一九〇〇	一一〇〇
				一一六〇	一八〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一二〇〇
				一二四〇	一九〇〇	一六〇〇	二一〇〇	一三〇〇
				一三二〇	二〇〇〇	一七〇〇	二二〇〇	一四〇〇

本表中身長欄ハ「センチメートル」其括弧内ノ数字及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

考 備	學 就 不		學 就	
	學 期	年 月 日	就 學 年 月 日	入 學 年 月 日

第十號表

生 年 月	名	氏	住 所	入 學 年 月 日	入 學 前 年 月 日	本 業 年 月 日	退 學 年 月 日	退 學 理 由	保 護 者			
									氏 名	住 所	業 職	見 童 子 關 係

考 備	學 業 成 績				在 學 中 出 席 及 缺 席	出 席 日 數	身 體 ノ 狀 況					
	第 一 學 年	第 二 學 年	第 三 學 年	第 四 學 年			身 體 長 重	胸 圍	背 骨 格	眼 疾	耳 疾	齒 疾

備考 學校醫ヲ置カサル學校ニ於テハ身體ノ狀況ノ欄ハ之ヲ闕クコトヲ得

○農商務省令第十八號

明治三十四年ニ於テ蠶種ヲ製造スル者ハ明治三十三年七月十六日ニ農商務省令第十七號蠶種検査法施行規則第一條ノ規定ニ依リ蠶種製造届書ヲ差出スコトヲ要ス

明治三十三年八月二日

農商務大臣曾禰荒助

逓信省令第二十七號 私人設鐵道法施行規則

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

第一條 私設鐵道假免許ノ申請書ハ發起人之ニ連署シ本店ヲ設置セムトスル地ノ地方長官ヲ經由

明治三十三年八月 省令 農務省第十八號 逓信省第二十七號 私人設鐵道法施行規則

シテ之ヲ差出スヘシ

第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ

起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ

第三條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 商號及本店設置地

三 線路ノ起點及終點並其ノ經過スヘキ地名

四 鐵道ノ種類及軌間

五 資本ノ總額

六 株式總數及一株ノ金額

七 會社存立時期ヲ定メタルトキハ其ノ時期

八 發起人ノ氏名住所

九 發起人ノ引受クヘキ株式ノ總數並各發起人ノ引受株式數

前項ノ規定ハ鐵道延長ノ起業目論見書ニ之ヲ準用ス但シ建設資金ノ出資方法ヲ記載スヘシ

第四條 假免狀ヲ受ケタル後起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ但シ發起人ノ死亡氏名住所ノ變更ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ發起人ノ連署ヲ以テ之ヲ届出クヘシ

第五條 假定款ニハ商法ノ規定ニ依リ定款ニ記載スヘキ事項ノ外線路ノ起點終點及其ノ經過地ノ地名ヲ記載スヘシ

第六條 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書ニハ鐵道敷設ヲ必要トスル地方ノ狀況及鐵道敷設ニ因リ從來ノ交通機關ニ比シ運輸上ニ於テ公眾ノ受クヘキ利益等ヲ詳細ニ記載シ第一號及第二號様式ニ據リ旅客表及貨物表ヲ添附スヘシ

第七條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

一 豫測平面圖

縮尺ハ二吋三十釐トシ線路ノ中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ其ノ經過スル地名及地勢ヲ明記シ停車場ノ位置名稱及曲線半徑交角ヲ示シ距離ハ半哩毎ニ記入スヘシ

二 豫測縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎トシ中心線地面ノ高低黒色及施工基面ノ高低赤色ヲ半哩毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長線路ノ勾配並停車場ノ位置名稱ヲ記入スヘシ

市街地ニ係ル線路ノ部分ハ別ニ長一吋三釐高一吋三十呎ノ縮尺ヲ以テ表ハセル平面圖及縱斷面圖ヲ添附スヘシ

第八條 線路豫測圖ノ説明書ニハ線路經過地ノ地勢ヲ詳記シ市街村落社寺名勝舊跡公園道路山嶽河川港灣等ノ重モナルモノ及要塞地トノ關係ヲ明ニスヘシ

説明書ニハ縮尺二十万分ノ一以上ノ地圖ヲ添ヘ既成鐵道若ハ官設豫定線又ハ本免許ヲ受ケタル私設鐵道トノ關係ヲ明示スヘシ

第九條 敷設費用ノ概算書ハ第三號様式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

敷ヲ掲クヘシ

第十條 運送營業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額及内譯ヲ示シ且資本ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

線路延長ノ場合ニ於テハ前項ノ外延長ノ爲線路全般ニ及ホスヘキ收入及支出ノ概算ヲ記載スヘシ

第十一條 運送營業上ノ收支概算書ノ說明書ニハ旅客貨物交通ノ概況及重要ナル貨物ノ種類ヲ詳説シ第四號様式ニ依リ每一哩ノ建設費貨物噸哩旅客人哩貨物收入旅客收入營業費及各項ノ合計並純益及其ノ資本ニ對スル割合ヲ掲載シタル表ヲ添附スヘシ

第十二條 線路豫測圖及說明書、敷設費用ノ概算書、運送營業上ノ收支概算書及說明書ニハ調査主任者之ニ署名捺印スヘシ

第十三條 假免許失效ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ假免許狀ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ハ創立總會ニ於テ會社設立ノ廢止ヲ議決シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本免許申請期限延期ノ申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ

第十五條 本免許ノ申請書ハ總取締役之ニ連署シ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ

起業カ本店所在地外ノ地方管内ニ係ルトキハ會社ハ其ノ關係部分ニ對スル書類圖面ノ謄本ヲ調製シテ之ヲ關係地方長官ニ差出スヘシ

關係地方長官前項ノ書類圖面ヲ受取リタルトキハ各意見書ヲ進達スヘシ

第十六條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 單線又ハ複線等ノ區別
- 二 軌間及軌道ノ間隔
- 三 建築定規
- 四 曲線ノ最小半徑及反方向曲線間ノ最短直線
- 五 線路ノ最急勾配及縱弧線ノ最小半徑
- 六 施工基面ノ幅、築堤及切取斜面ノ勾配、排水渠ノ寸法及用地ノ幅
- 七 橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ臺脚及基礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質、構造、寸法及所定最大活重並桁各部ノ最大應力及之ニ伴フ撓度
- 八 隧道ノ各種地質ニ應スル施工斷面、坑門、排水渠及待避所ノ構造並各待避所間ノ距離
- 九 軌條及附屬品ノ材質、形狀及重量、枕木ノ材質、寸法及敷列間隔、道床ノ種類及厚、轉轍器及轍叉ノ構造並曲線ニ於ケル軌間ノ擴張及外方軌條ノ高度
- 十 停車場ニ於ケル諸建物、乘降場、貨物積卸場、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、貯水器、石炭臺等ノ位置及構造、側線ノ配置、轍叉ノ交角、用地ノ境界並停車場哩程
- 十一 機關車ノ輛數、形狀、構造、寸法、重量及汽壓、客車並貨車ノ輛數、形狀、寸法、容積、重量、機關車及客貨車ノ車臺及車輪ノ構造、聯結具及緩衝器ノ裝置寸法等
- 十二 國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉シ又ハ之ト鄰接スル箇所ノ防備
- 十三 其ノ他鐵道建設規程若ハ特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工事方法

電氣鐵道ニ在リテハ發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法、原動機ノ種類、箇數及馬

力數發電機ノ種類、筒敷及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓變壓器(同轉變壓器ヲ含ム)ノ種類、筒敷及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓及其ノ配置法、電車ニ裝置スル電動機ノ種類、筒敷及電氣馬力數又ハ「ワット」電壓、電車内機械器具ノ裝置法、電氣方式、配電法、電氣鐵道方式(單線軌道ニ在リテハ)電氣線路ノ種類及構造法、保安裝置法ヲ明細ニ記入スルコトヲ要ス

第二項中第一號第二號第四號及第五號ヲ除クノ外各號ニハ設計圖面ノ添附ヲ要ス但シ停車場圖ハ縮尺一吋一釐トス

第十七條 本免許申請ノ際橋梁及機關車ノ設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ橋梁ニ在リテハ適宜ノ縮尺ヲ以テ河川橫斷面圖ニ平水位及最高洪水位ヲ示シ且橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入シタルモノ又機關車ニ在リテハ縮尺一吋八呎ヲ以テ表ハセル略圖ニ豫メ確定シ得ヘキ寸法、重量等ヲ記載シタルモノヲ呈出シ橋桁又ハ機關車製造者手前ニ詳細ナル設計ヲ定メ更ニ認可ヲ受クヘシ

第十八條 線路實測圖ハ左ノ諸圖トス

一 實測平面圖

縮尺一吋三十釐トシ線路ノ左右各十釐以內ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街村落、社寺、名勝舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣、要塞地等ヲ示シ府縣郡市、町村ノ境界及磁針方位ヲ記スヘシ線路中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ起終點、半徑及交角、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱及哩程、隧道及橋梁ノ名稱並位置ヲ示スヘシ若シ他ノ鐵道線路ト交叉スルカ或ハ之ニ接近若ハ連絡スル所アルトキハ該線路ノ前後各一哩間ノ中心線ヲ記入スヘシ家屋及其ノ他ノ建築物ニ接近シ又ハ之ヲ移轉スヘキ箇所、重要ナル河川ヲ附替フヘキ箇所、

重要道路又ハ軌道ヲ橫斷シ若ハ之ヲ附替フヘキ箇所並他ノ鐵道ト交叉シ又ハ之ニ接近若ハ連絡スル箇所ハ一吋三釐ノ縮尺ヲ以テ其ノ局部ノ地形ヲ附記シ且設計ノ概要ヲ示スヘシ市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺一吋三釐ノ平面圖ヲ添附スヘシ

電氣鐵道ニ在リテハ別ニ縮尺一吋三釐ヲ以テ表ハセル全線ノ平面圖ヲ添附シ發電所、變壓所、配電所、電氣線路、電柱、埋線及埋線試驗口ノ位置、埋線ノ深、電氣線路ノ經過地名及近傍ノ町村名、電柱ノ番號、道路ノ幅、電柱ノ道路へ出幅及其ノ最近地ノ番地、他人ニ屬スル電燈線、電力線其ノ他電氣鐵道用電線ト交叉又ハ接近スル箇所、電氣線路ヨリ凡ソ一吋以內ノ區域ニ在ル電信線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置並歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スル場合ニハ軌道ヨリ凡ソ二吋以內ノ區域ニ在ル地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體及發電機ノ一極ヲ接地スル點ノ位置等明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルコトヲ要ス

二 實測縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎トシ中心線地面ノ高低、色黒施工基面ノ高低、色赤築堤ノ高、色綠及切取ノ深、色赤十釐毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、桁ノ種類及筒敷、停車場聯絡所、信號所ノ名稱、哩程及兩端區域、國道其ノ他重要ナル道路踏切ノ位置並線路ノ勾配ヲ詳記シ且欄外ニ直線及曲線ノ圖表ヲ示スヘシ

國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉スル箇所ハ適宜ノ縮尺ヲ以テ其ノ附近ニ於ケル高ノ關係ヲ示シ且設計ノ概要ヲ附記スヘシ他ノ鐵道ニ接近シ又ハ之ニ連絡スル場所ハ別ニ縮尺長一吋三釐高一吋三十呎ヲ以テ表ハセル前後各一哩間兩線對比ノ縱斷面圖ヲ添附スヘシ

市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺長一時三鎖高一吋二十呎ノ縱斷面圖ヲ添附スヘシ

三 實測橫斷面圖

縮尺適宜トシ縱斷面圖ノミニテ地形ヲ示スニ不充分ナル箇所ニ限り之カ添附ヲ要ス

四 實測河川圖

内務省直轄河川其ノ他重要ナル河川ヲ橫斷スル箇所ニ限り調製シ平面圖ハ縮尺一時三鎖縱斷面圖ハ縮尺長一時三鎖高一吋二十呎橫斷面圖ハ縮尺適宜トシ鐵道線路ノ上下流各半哩間ニ於ケル地形堤塘河床ノ形狀及其ノ地質平水位及最高洪水水位ヲ示シ且橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入スヘシ

實測圖面ニハ第五號及第六號樣式ニ依リ曲線表及勾配表ヲ添附スヘシ
圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ縱橫各一呎ヲ以テ最小限トス

第十九條 工費豫算書ハ第七號樣式ニ依リ其ノ總額及内譯各項目毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

工費豫算書ニハ第八號樣式ニ依リ營業資金、工費豫算並會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費及發起人カ受クヘキ報酬アルトキハ其ノ額ヲ合記シタル表ヲ添附スヘシ

第二十條 工費豫算總額ノ増減又ハ各線若ハ各區ニ對スル工費豫算ノ分合ヲ爲サムトスルトキハ理由書及明細表ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 會社ハ每事業年度末ニ於ケル工費ノ豫算決算ノ差引對照表ヲ調製シテ定時總會後一週間内ニ届出ツヘシ

第二十二條 工事方法變更認可ノ申請書ニハ理由書、工事方法書及圖面並新舊工費對照表ヲ添附スヘシ但シ停車場ニ關スル圖面ハ新舊設計ノ對照ヲ明示スルコトヲ要ス

第二十三條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル左ノ變更ハ前條ノ規定ニ準シ書類及圖面ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ

- 一 踏切道及道路、河川附替工事ノ伸縮増減
- 二 橋梁(溝橋ヲ含ム)及隧道ノ伸縮増減
- 三 停車場ニ於テ乗降場、常置信號機、跨線橋及地下道ノ増設並其ノ他ノ建造物ノ増減及本線路ニ關係ヲ有セサル側線ノ伸縮増減
- 四 機關車、客車及貨車ノ増加

第二十四條 線路ノ變更ハ理由書及新舊對照圖並新舊工費對照表ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ

- 左ニ掲クル各號ニ該當スルモノハ前項ノ規定ニ準シ書類圖面ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ
- 一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以內ニ在ルトキ
- 二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ並之ヲ變更シテ二十鎖ヨリ短縮セシメサルトキ
- 三 施工基面高低ノ變更カ實測縱斷面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以內ニ在ルトキ
- 四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ並之ヲ變更シテ百分ノ一ヨリ急ナラシメサル

トキ

停車場内線路ノ勾配、内務省直轄河川及其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合ニ於テハ前項ニ該當スル場合ト雖遞信大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

停車場、聯絡所、信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ變更シタルトキハ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 假設工事ノ認可申請書ハ理由書、圖面及工事方法書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ差出スヘシ

假設工事ハ豫メ其ノ使用期限ヲ定ムルコトヲ要ス

第二十六條 左ノ假設工事ヲ施行スルトキハ理由書及圖面ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ届出ツル外即日電信ヲ以テ報告スヘシ

一 天災事變ニ際シ一時ノ用ニ供スル假線路及假建造物

二 停車場内ニ於テ側線其ノ他建造物ノ改築工事ヲ施スニ當リ設クル假線路及假建造物

第二十七條 第二十二條乃至第二十六條ノ圖面及工事方法書ニ付テハ第十六條及第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 工事方法書及圖面、線路實測圖及工費豫算書其ノ他附屬表ニハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第二十九條 私設鐵道法第十條第二項第三號ニ掲ケタル決定書ノ謄本ハ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テ差出スヘシ

第三十條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ

- 一 資本ノ總額
 - 二 株式ノ總數
 - 三 株主ノ總數
 - 四 議決權ノ總數
 - 五 出席株主ノ總數
 - 六 出席株主ノ有スル株式ノ總數
 - 七 出席株主ノ有スル議決權ノ總數
- 前項ノ規定ハ本規則ノ規定ニ依リ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ差出ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第三十一條 私設鐵道法及商法ノ規定ニ依リ爲シタル登記ノ届出ハ登記ノ日ヨリ一週内ニ其ノ登記謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ
- 第三十二條 本免許失効ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ免許狀ヲ返納スヘシ
- 第三十三條 會社ハ本免許ヲ受ケタルトキハ一箇月内ニ主任技術者ヲ選任スヘシ
- 主任技術者ヲ置キタルトキハ一週内ニ其ノ履歷書及技術修業ノ證明書類ヲ添附シテ届出ツヘシ更任アリタルトキ亦同シ
- 技術ニ關スル書類圖面ニシテ監督官廳ニ呈出スルモノニハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ
- 第三十四條 主任技術者ノ缺位ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ更任者ヲ選任シ前條第二項ノ規定ニ依リ届出ツヘシ
- 第三十五條 定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

- 第三十六條 增加資本ニ對スル新株ノ募集ヲ了ハリタルトキハ株式申込證ノ謄本、取締役、監査役及検査役ヨリ株主總會ニ爲シタル報告ノ要領書ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 第三十七條 資本減少ニ係ル定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ債權者カ期限内ニ異議ヲ述ヘサリシ旨並異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
- 第三十八條 他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ債權ノ目的トシテ之ヲ受クルノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ詳記シ社名、株數、取得ノ方法及費途ヲ記載シ質權ニ在リテハ尙ホ期間、元金額、利率、債務者ノ氏名等ヲ記載シ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ
- 第三十九條 鐵道ノ貸借又ハ營業ノ管理委託ノ認可申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書、貸借又ハ管理ニ關スル契約書謄本等ヲ添附スヘシ
- 第四十條 社債發行認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 社債發行ヲ要スル事由
 - 二 社債ノ總額
 - 三 券面ノ金額
 - 四 社債ノ利率
 - 五 社債募集ノ初期及終期
 - 六 社債元利償還ノ方法及期限
- 前項ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ其ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四十一條 前條ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
 - 一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

- 二 最終ノ貸借對照表
 - 三 元利金支拂ノ豫算
 - 四 株金總額及拂込額並ニ鐵道及之ニ屬スル物件ノ抵當ノ登記謄本
 - 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額
 - 六 社債發行ニ關スル條件及規程
- 前項第六號ノ書類ニ記載ノ事項ヲ變更シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ
- 第四十二條 社債募集ノ公告ヲ爲シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ
- 第四十三條 社債ノ募集ヲ了リタルトキハ募集締切ノ日ヨリ三十日內ニ左ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ
- 一 募集締切ノ年月日
 - 二 募集金額
 - 三 應募金額
 - 四 募集契約締結ノ最昂、最低價格及會社ノ實收スヘキ金額
- 無記名式ノ債券ヲ發行シ又ハ記名式ノ債券ヲ無記名式ニ、無記名式ノ債券ヲ記名式ニ變更シタルトキハ其ノ金額、券數及發行又ハ變更ノ年月日ヲ記載シ發行又ハ變更ノ日ヨリ一週間内ニ届出ツヘシ
- 前項ノ規定ハ株券ニ之ヲ準用ス
- 第四十四條 會社ハ毎年社債ニ關スル左ノ事項ヲ翌年二月末日迄ニ届出ツヘシ
- 一 其ノ年社債拂込高、既往累年拂込總高及未拂込高

二 其ノ年社債償還高既往累年償還總高及未償還高
 三 利子仕排高
 四 債券讓渡譲受人ノ人員及償金高
 五 其ノ年未現在債權者ノ員數

第四十五條 鐵道及之ニ屬スル物件抵當負債ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

- 一 負債ヲ要スル事由及其ノ金額
- 二 元利償還ノ方法及期限
- 三 利率
- 四 抵當物件ノ種類但シ目錄ヲ添附ス
- 五 契約書謄本
- 六 債權者ノ氏名住所

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書及總株金拂込額及社債總額並前ニ爲シタル抵當ノ登記謄本ヲ添附スヘシ

第四十六條 前條ノ外會社ニ於テ借入金ヲ爲シタルトキハ借入ノ日ヨリ一週間内ニ前條第一項第一號乃至第三號及第六號ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ其ノ事項ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十七條 機關車、客車及貨車ノ讓渡又ハ二箇月以上ノ期間ヲ定メ若ハ二箇月以上ニ涉リ之カ貸渡ヲ爲ストキハ認可ヲ受クヘシ但シ連帶運輸ノ場合ニ於テ豫メ使用料ヲ定メタル交互ノ使用ハ此ノ限ニ在ラス

前項認可申請書ニハ契約事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第四十八條 會社合併認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

- 一 合併ノ事由
- 二 合併方法

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書
- 二 債權者カ期間内ニ異議ヲ述ベサリシ旨並異議ヲ述ベタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類

第四十九條 鐵道敷設ニ著手シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ

第五十條 工事著手及竣功期限ノ伸長延期並期限指定ノ申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ

第五十一條 工事施行中ハ三箇月毎ニ工程報告ヲ差出スヘシ

第五十二條 工事カ竣功シタルトキハ成功圖面並諸表ヲ添附シ届出ツヘシ

前項圖面及諸表ハ別ニ之ヲ定ム

第五十三條 旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ一時旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ヲ變更ヲ爲シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

- 第五十五條 通常貨物列車及臨時旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發著時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ届出ツヘシ
- 第五十六條 第五十三條ノ認可申請書ニハ運轉圖表及列車發著時間表ヲ添附スヘシ
前項ノ列車發著時間表ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
 - 一 驛名
 - 二 各驛間ノ距離
 - 三 各驛累計距離
 - 四 列車ノ番號及種類
 - 五 發著時刻
 - 六 上下列車ノ區別
- 前項時間表ニハ聯結客車ノ等級及種類並他ノ鐵道へ連絡スヘキ接續時間ヲ附記スヘシ
- 第五十七條 列車發著時間及度數變更ノ認可申請書及届書ニハ理由書ヲ添附スヘシ
- 第五十八條 旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發著時間及度數ノ變更ハ臨時列車ヲ除クノ外其ノ實施前少クトモ三日間各停車場ニ之ヲ揭示スルコトヲ要ス
- 第五十九條 他ノ鐵道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間内ニ届出ツヘシ
 - 一 運帶驛名
 - 二 旅客及荷物取扱方

- 三 賃金ノ割賦方
 - 四 共同停車場及倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項
 - 五 線路及車輛ノ使用料、運滯料等ニ關スル事項
 - 六 運輸上ノ責任負擔方
 - 七 運輸開始ノ年月日
- 第六十條 會社カ解散シタルトキハ登記謄本ヲ添附シテ届出ツヘシ
清算カ終了シタルトキハ清算人ハ其ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ一週間内ニ株主總會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 附則
- 第六十一條 本規則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第六十二條 私設鐵道法施行前ニ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受ケタル他ノ會社ノ株式ヲ有スル會社ハ本規則施行ノ日ヨリ二週間内ニ第三十八條ニ掲クル事項及取得若ハ設定ノ年月日ヲ記載シテ届出ツヘシ
- 第六十三條 私設鐵道法施行前ニ鐵道及之ニ屬スル物件ヲ質權ノ目的トシテ負債ヲ爲シタル會社ハ本規則施行ノ日ヨリ二週間内ニ其ノ物件ノ種類、元金額、利率、期限及債權者ノ氏名並質權設定ノ年月日ヲ記載シテ届出ツヘシ
- 第六十四條 商法施行法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル事項ハ登記ノ日ヨリ一週間内ニ登記謄本ヲ添附シテ届出ツヘシ

明治三十三年八月 省令 逓信省第二十七號 私設鐵道法施行規則

表								
鐵道運賃	差 異	摘 要	發 着 點	里 程	馬車及人力車乘客		乘 船 客	
					人 員	旅行費	人 員	旅行費
計	計							

五三五

(第一號) 間 旅 客 表

步 行 客		合 計		哩 數	乘 客 噸	汽 車 貨	差 送	摘 要
人 員	旅行費	人 員	旅行費					
		計	計		計	計	計	

明治三十三年八月 省令 逓信省第二十七號 私設鐵道法施行規則

五三四

明治三十三年八月 省令 總督府第二十七號 私設鐵道法施行規則

表		(第五號) 線 曲 線 表										
哩 鎖 節		哩 鎖 節										
i (勾 配)		曲線ノ始點		曲線ノ終點		半徑	交角	方 向	切點ノ長		曲線ノ長計	
上)	下)	哩 鎖 節	哩 鎖 節	哩 鎖 節	哩 鎖 節				哩 鎖 節	哩 鎖 節	哩 鎖 節	哩 鎖 節
11N.	11N											

五二九

明治三十三年八月 省令 總督府第二十七號 私設鐵道法施行規則

(第四號) 收 支 概 算 書									
節	線 路	建 設 費		貨 物 噸 哩		旅 客 人 哩		貨 物 收 入	
		合 計	每 一 哩	合 計	每 一 哩	合 計	每 一 哩	合 計	每 一 哩
直線ノ長計	哩 鎖 節								

五二八

(第七號)
何々問工費豫算書
哩 鐵 節

目	數量	平均單價	金 高	合 計	項 目	目
地 地 地 用 用 用 場 場 場 換 換 換 手 手 手	哩 立坪 立坪 立坪				軌 道 費	品木又利費止 及鐵軌及 枕木及 枕木及
切 切 切 築 築 築 付 付 付 地 地 地	哩 立坪 立坪 立坪				停 車 場 費	露 露 露 露 露 露 露 露 露
取 取 取 提 提 提 留 留 留 換 換 換 道 道 道	哩 立坪 立坪 立坪				波 車 費	機 機 機 客 客 客 貨 貨 貨
梁 梁 梁 架 架 架 橋 橋 橋 所 所 所	哩 立坪 立坪 立坪				器 械 場 費	建 建 建 設 設 設 費 費 費
渠 渠 渠 溝 溝 溝 所 所 所	哩 立坪 立坪 立坪				諸 建 物 費	送 送 送 送 送 送 送 送 送
何 何 何 河 河 河 外 外 外	哩 立坪 立坪 立坪				運 送 費	送 送 送 送 送 送 送 送 送
開 開 開 暗 暗 暗	哩 立坪 立坪 立坪				送 送 送 送 送 送 送 送 送	送 送 送 送 送 送 送 送 送
何 何 何 河 河 河 外 外 外	哩 立坪 立坪 立坪				送 送 送 送 送 送 送 送 送	送 送 送 送 送 送 送 送 送

送 高

(第六號)
線 勾 配

數量	平均單價	金 高	合 計	哩 程			フオルメーシ ヨシノ高		ハ(高低ノ差)計	
				哩	節	哩	節	上リ	下リ	
明本組立坪										
橋										
平均										

備考 積集費・設立總會後定期制・至・送ノ費用トス
 電氣鐵道工費豫算書ニハ下ノ各項目ヲ加フヘシ
 用地費中線路用地ノ次ニ(送電用地)(受電用地)(在場
 所用地)
 止工費ノ中ニ(發電用水路)
 (發電所費)(發電所建築費)(原動機)(發電機)
 (蓄電池)(送電線路材料費)
 (受電所費)(受電所建築費)(受電線路材料費)
 (電氣機)(電氣機材料費)
 (電氣所費)(電氣所建築費)(電氣機材料費)
 電氣機材料費ノ前ニ(電氣機材料費)ヲ加ヘテ且ツ其内ニ
 電氣機材料費ノ建設費ヲ記入スヘシ

(第八號)		項
費 目	金 高	
營業資金		投資費
工費豫算額		測量地
.....		工事
.....		土 工
合 計		橋 梁
		溝 橋
		伏 道
		陸 道

備考 營業資金ハ營業開始前營業費ニ屬スル假拂ニ充ツル資金トス

○逓信省令第二十八號
專用鐵道規則左ノ通定ス

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

專用鐵道規則

第一條 一個人又ハ一會社ニ於テ個人專用ニ供スル爲鐵道ヲ敷設セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ免許ヲ申請スヘシ

第二條 前條ノ申請書ニハ使用ノ目的ヲ記載シ左ノ書類圖面ヲ添附スヘシ

一 實測圖面

二 工事方法書

三 工費豫算書

第三條 前條書類圖面ノ外審査ニ必要ト認ムル書類圖面ノ呈出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 免許及認可ニハ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトアルヘシ

第五條 免許失效ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ免許狀ヲ返納スヘシ

第六條 起業者ハ運轉ニ關スル規程ヲ定メ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第七條 起業者カ運轉ノ管理ヲ他ニ委託セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第八條 專用鐵道ヲ讓受ケ自己ノ使用ニ供セムトスル者ハ讓渡人ト連署シ地方長官ヲ經由シテ免許ヲ申請スヘシ

第九條 工事方法ノ變更及假設ノ工事ハ認可ヲ受クヘシ

第十條 私設鐵道法第二十七條 第四十二條乃至第五十條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ專用

鐵道ニ之ヲ準用ス

- 第十一條 專用鐵道ハ特ニ認可ヲ受クルニ非サレハ使用ノ目的ニ屬セサル物品運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 第十二條 公安ニ妨害アリト認ムルトキハ專用鐵道ノ全部又ハ一部ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十三條 本則ノ規定又ハ條件ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 起業者カ法令ノ規定又ハ條件ニ違反シ又ハ法令ニ基キ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

附則

第十五條 本則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第二十九號

鐵道事故届出ニ關スル規定左ノ通定ム

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

第一條 私設鐵道株式會社ハ本規定ニ依リ鐵道地内ニ生シタル事故ヲ届出ツヘシ

第二條 鐵道事故ヲ分テ左ノ二種トス

第一種

- 一 衝突
- 二 顛覆
- 三 機關車汽缸破裂
- 四 負傷者又ハ死亡者ヲ生シタル運轉上ノ事故

- 五 十二時間以上列車運轉ヲ廢止セル事故
- 六 其ノ他重大ナル事故

第二種

- 一 脫線
- 二 列車分離
- 三 異線進入
- 四 列車運轉ヲ支障セル車輛ノ不良
- 五 線路障礙
- 六 列車妨害
- 七 車輛逸走
- 八 火災
- 九 轢死
- 十 其ノ他ノ事故

第三條 前條第一種ニ屬スル事故ハ第四條ノ規定ニ依リ書面ヲ以テ届出ツルノ外即時電信ヲ以テ報告スヘシ

第四條 鐵道事故ハ遲滞ナク第一號書式ニ依リ届出ツヘシ

第五條 車輪、車軸、聯結具等ノ破損ニ關スル届出ニハ之カ圖面及製造所名、材質、破損ノ狀態等ヲ詳記セル説明書ヲ添付スヘシ

第六條 營業列車ノ通過セサル側線ニ於テ車輛入レ換等ノ場合ニ生シタル脫線其ノ他輕少ナル事

故ハ一箇月分ヲ取纏メ翌月十五日限リ第二號書式ニ依リ届出ツヘシ
 第七條 甲鐵道所屬ノ車輛若ハ列車カ乙鐵道線路ニ於テ運轉中事故發生シタルトキハ乙鐵道ヨリ
 届出ツヘシ

附則

第八條 本令ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第二號書式 (用紙美濃紙)

事故種別	發生日時	場所	現場ノ有無	死傷者	停止時間	事故原因	當時ノ處置
脱線 衝突 轉覆等	年月日時分	停車場又ハ起點ヨリ哩數(何驛間)	機關車、車輛及列車ノ種類並番號 詳細ニ記載シ必要ニ依リ圖面ヲ添付ス	死傷者ノ員數、旅客、公衆職員ノ別、死傷ノ輕重等		期間内ニ取調ヲ了セザルトキハ結了次第届出ツヘキモノトス	

第二號書式 (用紙美濃紙)

發年	生月	所場	種類故事	原因	當務者	備考

注 悉 事故共ノ他ノ欄ニハ第一號書式記載ノ例ニ準シ要領ヲ摘記スヘシ

○逓信省令第三十號

鐵道臺帳規程左ノ通定

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道臺帳規程

第一條 私設鐵道株式會社ハ本規程ニ依リ鐵道臺帳ヲ調製スヘシ

第二條 鐵道臺帳ヲ分チテ用地臺帳、橋梁臺帳、隧道臺帳、機關車臺帳、客車臺帳及貨車臺帳ノ六種トス

用地臺帳、橋梁臺帳及隧道臺帳ハ各線路若ハ各區間毎ニ之ヲ區分スルコトヲ要ス

第三條 用地臺帳ハ用地一筆毎ニ國郡市町村大字字番號、買收當時ノ地目、段別又ハ坪數、原所有者氏名、用地ノ種別、線路用地、停車場用地、工場用地等ノ別買收代價、諸手當及其ノ合計、取得ノ方法及年月日並登記年月日ヲ記載スヘシ

用地臺帳ニハ前項一筆調ノ外各市町村別ニ線路用地、停車場用地及工場其ノ他用地ノ統括ヲ掲クルヲ要ス

第四條 橋梁臺帳ハ各橋梁毎ニ設計ノ要領、竣功年月日、哩程名稱、單線複線又ハ何線並列ノ區別、徑間ノ長、箇數及總長、間ノ距離桁又ハ拱ノ形式及材質、橋臺橋脚及基礎ノ構造、費額、重要ナル修繕ノ種類及年月日並検査ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ

第五條 隧道臺帳ハ各隧道毎ニ竣功年月日、哩程名稱、單線複線又ハ何線並列ノ區別、長、形狀、拱側壁及仰拱ノ構造、延長、坑門ノ構造、費額、重要ナル修繕ノ種類及年月日並検査ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ

載スヘシ

第六條 機關車臺帳ハ一輛毎ニ番號、種類、形式、製作者名、製造ノ年、使用開始年月、費額、汽缸徑、唧子衝程、齒輪數及徑、炭水車輪數、機關車及炭水車ノ全長並最大ノ高幅、運轉整備ノトキニ於ケル機關車及炭水車ノ重量、前所有者名及番號、重要ナル修繕ノ種類及年月日並毎年度ノ走行哩數、検査及試験ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ

第七條 客車臺帳及貨車臺帳ハ一輛毎ニ番號、番號車種、形式、製作者名、製造ノ年、使用開始年月、費額、最大ノ長高幅、車體外部寸法、自重、臺框ノ構造、車輪ノ數、前所有者名及番號、重要ナル修繕ノ種類及年月日並検査ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ

前項ノ外客車ニ在リテハ旅客ノ定員、定員ナキモノハ其ノ容積、貨車ニ在リテハ積重、容積ヲ記載スヘシ

第八條 鐵道臺帳ニハ附屬圖面ノ番號ヲ記載スヘシ

第九條 鐵道臺帳ニ掲クル事項ニ異動ヲ生スルトキハ其ノ都度異動ノ事項及年月日ヲ記入スヘシ

附則

第十條 本規程ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

既設鐵道株式會社ハ本規程施行ノ日ヨリ一箇年內ニ本規程ニ依リ臺帳ヲ完成スヘシ

本規程ニ依リ臺帳ニ記載スヘキ事項カ本規程施行前ニ係リ調査スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

○逓信省令第三十一號

鐵道統計規程左ノ通定

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道統計規程

- 第一條 私設鐵道株式會社ハ本規程ニ依リ毎年鐵道統計ヲ調製シ之ヲ差出スヘシ
- 第二條 鐵道統計ハ別記様式ニ準據シ調製スヘシ
- 第三條 鐵道統計ハ會社ノ會計年度ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第四條 鐵道統計ハ別記各號ニ記載スル期間内ニ差出スヘシ
- 第五條 會社ハ鐵道統計主任者ヲ定メ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 附則
- 第六條 本規程ハ明治三十四年度ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一表

鐵道株式會社鐵道線路總表

明治何年度末日調

區間	開業線	區間	哩數	停車場數
	工事中線		哩數	
免許狀下付線	工事未着手線			
備考				

一線路哩數ハ實測哩ヲ以テ記載スヘシ
 一停車場數ハ開業線ニ係ルモノノミヲ記載スヘシ但シ他鐵道ノ所有ニ係ルモノニシテ共同使用スルモノハ赤字ヲ以テ記載スヘシ

會計年度調査ノ會社ハ翌年度四月限呈出
 曆年調査ノ會社ハ翌年一月限呈出

第二表

鐵道株式會社鐵道開業線路軌道明細表

明治何年度末日調

區間	單線	哩數	側線延長
	複線		
同々間			
同(貨物線)			
總計			

會計年度調査ノ會社ハ翌年度四月限呈出
 曆年調査ノ會社ハ翌年一月限呈出

第三表

鐵道株式會社機關車表

明治何年何半期末日調

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

種	何輪脚結車重量何噸	類	輛數
	タンダーエンジン		
	計		
	計		
總計			

備考
一 修繕中又は貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其ノ欄内ニ區別記載スヘシ
一 入レ換又ハ工事專用ノ機關車ハ符號ヲ附シテ區別記載スヘシ
私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

第四表 鐵道株式會社客車表

種	類	輛數	員數			總計
			一等	二等	三等	
一等客車	定員何人					
二等客車	定員何人					
二等合造客車	何人					
計	何人					
旅客						
郵便						
總計						

備考
一 定員總數ノ欄ニハ其ノ輛數ニ對スル各等定員ノ合計ヲ記載スヘキモノトス
一 修繕中又ハ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其ノ欄内ニ區別記載スヘシ

第五表

鐵道株式會社貨車表

明治何年度何半期末日調

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

種	類	輛數	積載總量	
			容積	重量
有蓋貨車	貨物車			
	家畜車			
無蓋貨車	魚運車			
	炭運車			
貨物緩急車	石炭車			
	土運車			
總計				

備考
一 重量ノ欄ニハ積載シ得ヘキ重量ヲ記載スヘシ
一 年度末ニ於テ修繕中又ハ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其ノ欄内ニ區別記載スヘシ

第八表

鐵道株式會社機關車其他運轉回數及走行哩數表 明治何年度何半期中

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

機關車走行哩	旅客列車	哩	數
	貨物列車		
列車走行哩	混合列車	哩	數
客貨車走行哩	客車		
備考			

一 走行哩數ハ總テ營業用運轉ニ係ル哩數ヲ算入スヘシ
 一 機關車走行哩數ニハ機關車ノ車輪走行シタル哩數及車輪入レ換ノ爲運轉シタル總テノ走行哩數ヲ算入スヘシ
 一 列車走行哩及客貨車走行哩數ニハ車輛入レ換ノ爲運轉シタル哩數ヲ算入スヘカラス
 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

第七表

鐵道株式會社運轉用石灰及油脂消費額 明治何年度何半期中

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

燃料	石炭	噸	量	代價	價
備考					

一 石灰及油脂消費額ハ營業上專ラ機關車及列車ノ運轉(點燈用ヲ除ク)ニ使用シタルモノヲ記載スヘシ
 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

第八表

鐵道株式會社旅客貨物及運賃表 明治何年度何半期中

私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

旅客	一等	噸	量	運賃	價
	二等				
二等	官小通	噸	量	運賃	價
三等	官小通				
合計	官小通	噸	量	運賃	價
合計	官小通				
備考					

備考	總計	貨物				數	運	貨	手荷物(有貨物)			
		郵便物	貨物	死傷	貨物				計	斤	斤	斤
		郵便物	貨物	死傷	貨物							
		郵便物	貨物	死傷	貨物							
		郵便物	貨物	死傷	貨物							
		郵便物	貨物	死傷	貨物							

一 定期乘車ノ類ハ各其ノ等級ノ内ヘ總テ其ノ延人員ヲ以テ算入スヘシ
 一 死體貴重品及動物ハ箇數又ハ斤量ヲ記載スヘシ
 一 郵便物ハ其ノ運賃ノミヲ記載スヘシ

會計年度調査ノ會社ハ翌年度五月限呈出
 曆年調査ノ會社ハ翌年二月限呈出

第九表

備考	總計	何々間				何々間				何々間				區間	停車場名	旅客	小手荷物	貨物	旅客	小手荷物	貨物	計
		間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間									

一 他鐵道ト運賃扱ヲ爲ス會社ニ在リテハ他線ニ屬スルモノハ之ヲ控除シ自己線路ニ屬スル
 旅客貨物ノ數量及運賃ノミヲ計算スヘシ又他鐵道線ト連絡スル會社ニ於テ他鐵道所屬ノ
 停車場ヲ其ノ起點又ハ終點ノ停車場トシテ共同使用スル場合ニハ當該停車場ニ於テ取扱
 ロタル數量ハ之ヲ他線扱ノ數量中ニ算入セス特ニ其ノ驛名ヲ掲ケ數量ニ區別記載スヘシ
 一 定期乘車ノ旅客ハ本表中ニ算入セス當該年度中ニ發賣シタル乘車券枚數、延人員(乗車券)

鐵道株式會社各停車場旅客貨物及運賃

明治何年度中

第十表
 一 死體貴重品及動物ノ類モ本表中ニ算入セスシテ其ノ箇數及運賃ヲ又郵便物ハ其ノ運賃ノミヲ欄外ニ記載スヘシ
 二 死體貴重品及動物ノ類モ本表中ニ算入セスシテ其ノ箇數及運賃ヲ又郵便物ハ其ノ運賃ノミヲ欄外ニ記載スヘシ
 會計年度調査ノ會社ハ翌年度五月限呈出
 歷年調査ノ會社ハ翌年二月限呈出

鐵道株式會社旅客貨物及延遲運程表

明治何年度中

備考	旅客	
	總延	人員
	噸	哩
貨物	總延	噸
	噸	哩

第十一表
 一 旅客及運賃ハ第九表欄外ニ記載スル定期乘車ニ係ルモノヲ算入シ其ノ他貨物ノ數及
 其ノ運賃ハ總テ第九表記載ノ事實ト符合スルヲ要ス
 二 貨物中ニハ小手荷物ニ係ルモノヲ算入スヘカラス
 三 延入哩及延遲噸ハ總テ實哩ヲ以テ算出スヘシ
 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

鐵道株式會社旅客貨物及運賃月譯表

明治何年度何半期中

何月	乘客		貨物		其他雜收入合計
	人員	斤數	噸數	哩數	

第十二表
 一 定期乘車人員及其ノ運賃ヲ算入スヘシ

翌月十五日限呈出

鐵道株式會社運輸月表

明治何年何月分

備考	總計	人員	斤數	噸數	哩數
	營業	人員	斤數	噸數	哩數
營業	車	輛	噸	哩	哩
	旅	客	人	哩	哩
	小	手	斤	噸	哩
	貨	物	噸	哩	哩
營業收入	客車	車	噸	噸	噸
營業收入	貨物	噸	噸	噸	噸
營業收入	雜	噸	噸	噸	噸
營業收入	計	噸	噸	噸	噸

備考

- 一 營業哩數ハ月末現在ノ實哩ヲ記帳スヘシ
- 一 車輛數ハ修繕中又ハ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ區別記帳スヘシ
- 一 旅客貨物ハ當該鐵道ニ於ケル取扱總數ヲ其ノ運賃ハ懸收入ヲ記帳スヘシ
- 一 哩平均營業收入ハ當月中營業シタル平均哩數ヲ以テ之ヲ算出スヘシ

○逓信省令第三十二號

私設鐵道株式會社會計準則左ノ通定ム

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

私設鐵道株式會社會計準則

- 第一條 私設鐵道株式會社ハ本則ニ準シ會計ニ關スル規程ヲ設ケ之ヲ届出ツヘシ其ノ變更ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 第二條 會社ノ會計年度ハ定款ノ規定スル所ニ依ル
- 第三條 會社ノ勘定ハ左ノ四種ニ區別スルコトヲ要ス
- 一 資本勘定
 - 一 收益勘定
 - 一 積立金勘定
 - 一 雜勘定
- 第四條 資本勘定ハ株金ノ拂込未濟高、拂込高、債券發行額及是等ヨリ生スル利息並他ノ勘定等ヨ

リ補充スル金額ヲ入トシ建設費、改良費等營業上收益ヲ生スル物件ノ創設改良ニ要スル資金並建設及營業用貯藏物品ノ購入代金ヲ其ノ出トスルヲ例トス

社債ノ元金等ヲ資本勘定ヨリ支出スルトキハ前項ノ出ニ之ヲ編入ス

第五條 收益勘定ハ會社カ運輸開始後營業上ヨリ生スル諸般ノ收入金ヲ入トシ鐵道ノ維持保存及

營業上ニ要スル諸般ノ費用ヲ以テ出トスルヲ例トス

運輸開始前ニ生シタル諸般ノ收入ハ資本勘定ニ編入ス

社債發行ノ益金ハ償還金出途ニ依リ資本勘定若ハ社債償還準備積立金勘定ニ編入ス

第六條 各積立金勘定ハ其ノ種類ニ依リ商法第九十四條ニ依ル積立金、配當準備金、社債償還準備金等ノ積立金及是等各積立金ヨリ生スル利息ヲ入トシ資本缺損補填金、配當平準支金及社

債償還元利支金等各積立金ヨリ支出スヘキ金額ヲ出トスルヲ例トス

商法第九十四條ニ依ル積立金ハ資本缺損補填ノ場合ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス

第七條 雜勘定ハ職員積立金、救濟金、契約保證金、配當未拂金等前各條以外ノ諸勘定出納ヲ整理ス

ルモノトス

第八條 株式公賣又ハ社債發行ノ結果差損金ヲ生シタル場合ト雖モ帳簿ノ記入ハ其ノ券面額ヲ以

テシ缺損額ヲ明示スルコトヲ要ス

會社カ所有スル他會社ノ株式、社債券其ノ他有價證券ハ其ノ買入又ハ拂込金額ヲ以テ記入スヘ

シ

第九條 財産目錄ニ記入スル價格ハ左ノ標準ニ依ル

- 一 有價證券ハ目錄調製ノ現時ニ於ケル價格カ共ノ買入代價又ハ拂込金額ヲ超過スルトキハ買入代價又ハ拂込金額ヲ以テ記入スヘシ
- 二 其ノ他ノ財産ハ實費決算額ヲ以テ記入スヘシ
- 第十條 貯藏物品ハ受拂共購入實費ヲ以テ出納ヲ爲スモノトス
- 第十一條 資本勘定及收益勘定ニ關聯スル費用ハ一定ノ標準ヲ定メ區分スルコトヲ要ス
- 第十二條 會社ハ毎事業年度末日ニ於ケル各勘定ノ貸借一覽表ヲ調製シテ之ヲ差出スヘシ
- 第十三條 本則ノ規定ハ免許補助其ノ他ノ場合ニ於テ特別ノ事項ヲ指定シタル場合ニハ之ヲ適用セス

附則

第十四條 本則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第三十三號

鐵道建設規程左ノ通定ム

明治三十三年八月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

鐵道建設規程

第一章 線路

第一條 建築定規

建築定規ノ最小限ハ本規程中特別ノ規定アル場合ノ外甲號圖面ニ依ル但シ曲線ニ於テハ外方軌條ノ高度並軌間ノ擴張ニ隨ヒ建築定規中心ノ偏倚傾斜ニ應スル度法ヲ取ルコトヲ要ス

貨物側線ニ於テハ特許ヲ得テ前項ノ建築定規ヲ縮小スルコトヲ得

第二條 曲線

本線路ニ在ル曲線ノ半徑ハ十五鎖以上トス特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ八鎖迄縮小スルコトヲ得

第三條 勾配

停車場外ニ在ル反方向ノ曲線間ニハ相當ノ長ヲ有スル直線ヲ挿入スルコトヲ要ス

鐵道線路ノ勾配ハ四十分ノ一ヨリ急ナラサルヲ通例トス如何ナル場合ト雖二十五分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス

勾配ノ變更スル箇所ニ於テ交切ノ外角三十五分以上ナルトキハ相當半徑ノ弧線ヲ以テ其ノ屈折點ヲ緩和ナラシムルコトヲ要ス

第四條 施工基面ノ幅

築堤又ハ切取ニ於ケル施工基面ノ幅(側溝ヲ除ク)ハ軌道中心ヨリ其ノ外縁迄七呎以上トス

第五條 排水及道床

線路ノ施工基面ハ排水ニ必要ナル高ヲ有スルコトヲ要ス

第六條 軌道ノ間隔

道床ノ厚ハ枕木下面ヨリ施工基面迄六吋以上タルヲ通例トス如何ナル場合ト雖三吋ヨリ減スルコトヲ得ス

兩軌道中心間ノ距離ハ十一呎以上トス第三軌道ヲ並設スルトキハ其ノ軌道ハ鄰接軌道ニ對シ中心

間ノ距離十二呎以上トス

二對以上ノ複線ヲ並設スルトキハ甲ノ一對ト乙ノ一對トノ互ニ鄰接セル軌道中心間ノ距離ハ十二呎以上トス

停車場内ニ於テハ軌道中心間ノ距離ハ十二呎以上トス

第七條 軌道ノ負擔力

本線路ニ於ケル軌道ノ各部ハ列車ノ活重ニ耐フヘキ負擔力ヲ有スルコトヲ要ス如何ナル場合ト雖一軸十噸ノ活重ニ耐フヘキ程度ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 軌條

本線路ノ軌道ニ用フル軌條ハ鑄製ニシテ新製ノトキ其ノ重量一碼四十五封度以上ノモノタルコトヲ要ス

第九條 軌間及外方軌條ノ高度

軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ内側ヨリ内側迄三呎六吋トス

直線ニ於テハ兩軌條ノ高ヲ均クスルコトヲ要ス

曲線ニ於テハ軌條ニ附帶スル場合ノ外其ノ半徑ニ應シテ第一項ノ軌間ヲ擴ムルコトヲ要ス

曲線ニ於テハ軌條ニ附帶スル場合ノ外其ノ半徑及列車ノ速度ニ應シテ外方ノ軌條ヲ内方ノモノヨリ高クスルコトヲ要ス

内外軌條ノ高低ハ曲線ニ接續スル直線若ハ緩和曲線ニ於テ其ノ差ヲ遞減スルコトヲ要ス但シ高低差ノ二百倍以上ノ距離ニ達スル迄ハ之ヲ全廢スルコトヲ得ス

第十條 轉轍器及轍叉

轍叉ニ附帶スル曲線ノ半徑ハ本線路ニ於テハ四百呎其ノ他ノ部分ニ於テハ二百呎ヨリ小ナルコトヲ得ス

尖端軌條ハ尖端ニ於テ少クトモ三吋半開クコトヲ要ス

第十一條 護輪軌條ノ間隔

轍叉ニ於テ軌條ト護輪軌條トノ間隔ハ一時八分ノ七以下トス
前項ノ場合ノ外軌條ト護輪軌條トノ間隔ハ二吋以上トス

第十二條 橋梁

線路ニ架設スル橋梁ハ木造ト爲スコトヲ得ス但シ徑間十二呎以下ノ桁ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
地方ノ狀況ニ依リ特別ノ必要アル場合ニ於テハ特許ヲ得テ木橋ヲ架設スルコトヲ得

鐵橋及鋼橋ニ用フル桁ハ鍛鍊若ハ軋壓セル材料ヲ以テ構造シタルモノタルコトヲ要ス

往來頻繁ナル道路上竝通船頻繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ少クトモ幅十呎以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第十三條 停車場内本線路ノ勾配

停車場内ニ於ケル本線路ノ勾配ハ三分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ百分ノ一至ルコトヲ得

第十四條 避難設備

本線路ニ向ヒ三分ノ一ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有スル側線若ハ支線アルトキハ本線路へ車輛ノ逸

出セサル様相當ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 聯絡停車場

二箇以上ノ鐵道線路カ同一停車場ニ集合スル場合ニ於テハ甲乙兩線路間ニ少クトモ短列車ヲ運轉スル線路ノ最長列車ニ均シキ長ヲ有スル列車ヲ容易ニ且迅速ニ相互轉移セシムヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 聯絡所及信號所

停車場外ニ於テ鐵道線路カ聯絡スル箇所ハ信號常設ノ場所ト爲スコトヲ要ス
閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テ停車場ヲ二箇以上ノ區間ニ區分スルトキハ該區間ノ境界點ニ信號所ヲ設クルコトヲ要ス

第十七條 鐵道ノ聯絡及交叉

停車場内ニ於テ二箇以上ノ鐵道線路カ同一軌道ヲ列車ノ發着ニ共用スルカ又ハ同平面ニ交叉スルトキハ之ニ關聯スル轉轍器及常置信號機ハ相互聯動ノ裝置タルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ必要ニ應シ避難側線ヲ設クルコトヲ要ス
鐵道線路ハ停車場聯絡所若ハ相當ノ設備アル信號所ノ外ニ於テ平面交叉ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 乘降場

乘降場擁壁面(突出點ヨリ度リ)ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ四呎六吋以上トス但シ乘降場カ曲線内ニ在ルトキハ少クトモ五十五呎(兩端ボギー中心間ノ距離ハ二十七呎トス)ノ全長ヲ有シ且第二十五

條第一項ノ最大幅ヲ有スル車輛ヲ通過セシムルニ妨ケナキ様其ノ半徑ニ應シテ軌道中心ヨリノ距離ヲ增加スルコトヲ要ス

乘降場ノ幅ハ七呎以上トス又兩軌道ノ中間ニアル乘降場ノ幅ハ九呎以上トス但シ第五項ノ長以外ノ箇所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

軌條面ヨリ乘降場面迄ノ高ハ二呎以下一呎六吋以上トス

乘降場ハ少クトモ其ノ一端ニ四分ノ一ヨリ急ナラサル勾配ヲ附スルコトヲ要ス

乘降場ノ長ハ少クトモ其ノ線路ニ運轉スル列車中ノ客車全數ニ相應スルコトヲ要ス

乘降場上ニ在ル柱類ハ乘降場擁壁面ヨリ三呎六吋以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

乘降場上ニ在ル跨線橋及地下道口ハ乘降場擁壁面ヨリ五呎以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

停車場木屋ハ乘降場擁壁面ヨリ七呎以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

第十九條 轉轍器及轉轍標識等ノ位置

轉轍器及轉轍標識等ノ軌條面上ニ突出スル各部ハ軌道中心ヨリ四呎九吋以上ヲ隔テ其ノ高ハ軌條面上六呎ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十條 待避側線

單線軌道ニ於ケル停車場内ノ待避側線ノ有效延長ハ七百呎以上トス但シ長列車ヲ運轉スルノ必要ナキ區間ニ在リテハ該區間ニ適度ト認メラルル迄其ノ長ヲ減縮スルコトヲ得

第二十一條 信號機

停車場聯絡所及信號所ニハ場内信號機ヲ設クルコトヲ要ス若シ其ノ防護區域外四十鎖以上ノ距

離ヨリ之ヲ見ル能ハサルトキハ前方ニ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス
停車場内ニハ必要ニ應シ出發信號機及側線信號機ヲ設クルコトヲ要ス

本線路ニ在ル對向轉轍器ニハ之ト聯動スル信號機若ハ標識ヲ設クルコトヲ要ス但シ停車場内ニ在
ル對向轉轍器ニシテ鎖錠シアルモノ若ハ番入ヲ附スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 電氣通信器
停車場聯絡所及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 待合所其ノ他ノ設備
停車場ニハ待合所、乗降場及便所等旅客ニ必要ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 貨物積卸場
貨物積卸場擁壁面(突出點ヨリ度リ)ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ第一條第二項ノ場合ノ外四呎六吋以
上トス

積卸場ノ高ハ軌條面上三呎ヲ超ユルコトヲ得ス但シ貨物ノ種類ニ依リ特別ノ必要アルトキハ此ノ
限ニ在ラス

第二十五條 機關車庫及客車庫
機關車庫及客車庫内並行軌道中心間ノ距離ハ十二呎以上トス

機關車庫及客車庫ノ門路竝内部ノ幅及高ハ第三十五條第一項ノ最大限外六吋以上ノ遊間ヲ存スル
コトヲ要ス

第二十六條 跨線橋及地下道
列車ノ行違ヲ爲ス停車場ニシテ旅客ノ乗降頻繁ナル場所ニハ跨線橋若ハ地下道ヲ設クルコトヲ要
ス

第二十七條 貯水器
貯水器ノ容量ハ三百立方呎以上トス

給水量ハ一分時間ニ十六立方呎以上トス
軌條面上給水口ノ高ハ九呎以上トス

第二十八條 轉車臺及遷車臺
機關車用轉車臺ハ直徑四十呎以上トス

客車及貨車用轉車臺ノ直徑及遷車臺ノ長ハ十二呎以上トス

第二十九條 貨車積載定規及計重臺
大荷物ヲ取扱フ停車場ニハ必要ニ應シ貨車積載定規及計重臺ヲ設備スルコトヲ要ス

貨車積載定規ノ高ハ軌條面上十二呎以下トシ其ノ他ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條 簡易停車場
地方ノ狀況ニ依リ特許ヲ得テ本規程ニ依ラサル簡易停車場ヲ設クルコトヲ得

第三十一條 修繕工場
車輛器具ヲ修理スル爲工場ヲ設クルコトヲ要ス但シ他ニ修理ヲ託スヘキ相當ノ場所アルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第三十二條 待避所

隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避クルニ困難ナル場所ニハ三百呎以下ノ距離ニ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

第三十三條 標識及車止

線路ニハ左ノ標識ヲ設クルコトヲ要ス

- 一 毎四分ノ一哩ノ距離ヲ示ス哩程標
 - 二 勾配ノ變更スル箇所毎ニ前後ノ勾配ヲ示ス勾配標
 - 三 本線路ニ接續スル側線若ハ支線アル場所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標
 - 四 踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標
 - 五 第一條第二項ノ場合ニ於テハ建築定規ノ縮小ヲ示ス警標
- 第一項第一號及第二號ノ標識ハ線路ノ同側ニ設クルコトヲ要ス

第三十四條 線路ノ防備

人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ルコトヲ防ク爲其ノ他保安上必要ナル場所ニハ堤塘ヲ築キ又ハ柵垣ヲ設ケ若ハ溝渠ヲ鑿ツコトヲ要ス

第二章 車輛

第三十五條 車輛ノ高竝幅

車輛定規ノ最大限ハ乙號圖面ニ依ル
外方ニ開キタル客車ノ扉ハ車輛定規ノ限界ヲ超ニルコトヲ得但シ建築定規ノ範圍内ニ於テ三吋以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

車輛ノ各部ハ車輪ヲ除クノ外輪鐵ノ磨損シタル場合ト雖軌條面上三吋以上ノ高ヲ有スルコトヲ要ス但シ排障器、制輪子、撒砂管等輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分ハ軌條面上一時ノ高迄下ルコトヲ得
排雪器ハ使用ニ際シ軌條頭ニ接觸セシムルモ妨ケナシ但シ轉轍器、護輪軌條等アル箇所ニ於テハ軌條面上三吋以上扛起スルコトヲ要ス

第三十六條 輪軸距

車輛ノ固定輪軸距ハ十五呎ヨリ大ナルコトヲ得ス但シ輪緣ナキ車輪ヲ有スル機關車ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

客車ノ全輪軸距ハ十呎ヨリ小ナルコトヲ得ス

第三十七條 車重

機關車車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十四噸ヨリ大ナルコトヲ得ス
固定輪軸距每一呎ニ對スル總重量ハ四噸ヨリ大ナルコトヲ得ス
機關車(炭水車アルモノハ之ヲ併セ)ノ前後緩衝器間ノ距離每一呎ニ對スル總重量ハ二噸ヨリ大ナルコトヲ得ス

客貨車車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十噸ヨリ大ナルコトヲ得ス

第三十八條 車輪ノ直徑(丙號圖面參照)

車輪ノ直徑ハ機關車ノ導輪及從輪ヲ除クノ外二呎六吋以上トス特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ一呎迄縮小スルコトヲ得

機關車勸輪ノ直徑ハ三呎ヨリ小ナルコトヲ得ス

第三十九條 車軸ノ大サ

車軸ハ滿載車ヲ最大速度ニテ運轉スルモ安全ヲ保ツニ充分ナル大サヲ有スルコトヲ要ス

第四十條 輪鐵(丙號圖面參照)

輪鐵ノ幅ハ四吋半以上六吋半以下トス

輪鐵一對ノ中間距離ハ三呎三吋以上三呎三吋四分の一以下トス但シ輪鐵ナキ輪鐵ニ付テハ三呎二吋半迄縮小スルコトヲ得

第四十一條 輪緣(丙號圖面參照)

輪緣ノ高ハ一吋以上トス但シ輪鐵ノ磨損シタル場合ト雖一吋半ヨリ大ナルコトヲ得ス

軌條頭内側ノ中位ト輪緣トノ遊間ハ半吋ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ磨損シタル場合ト雖一吋ヨリ大ナルコトヲ得ス

第四十二條 緩衝器及聯結器

緩衝器及聯結器ノ中心ハ空車ニ於テハ軌條面上三呎ヲ超ユルコトヲ得ス又滿載車ニ於テハ同シク二呎八吋ヲ下ルコトヲ得ス

兩側緩衝器中心間ノ距離ハ四呎トス又緩衝器面ヨリ車輛緩衝梁ノ距離ハ壓迫セラレタルトキニ於テ一呎ヨリ小ナルコトヲ得ス

機關車及客車ニハ前後ニ螺旋聯結器及側鎖ヲ備フルコトヲ要ス

貨車ニハ前後ニ螺旋聯結器若ハ連環聯結器及側鎖ヲ備フルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ側鎖ヲ省クコトヲ得

本條ノ規定ハ中央緩衝聯結器ヲ使用スルコトヲ妨ケス

第四十三條 機關車ノ裝置

機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一 汽罐ニハ各獨立ニ其ノ用ヲ爲シ得ヘキ二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト

二 汽罐内部ノ水平ヲ認知スルヲ得ヘキ二箇以上ノ各獨立ナル量水器ヲ備フルコト但シ其ノ一箇ハ機關手ノ位置ヨリ水平ヲ直ニ認メ得ヘキモノニシテ且其ノ汽罐ノ實用最低水位ヲ表示スルモノタルコトヲ要ス

三 二箇以上ノ安全瓣ヲ備フルコト

四 火室ノ頂板ニ少クトモ一箇ノ可蝕栓ヲ備フルコト

五 驗壓器ヲ備フルコト但シ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコトヲ要ス

六 汽罐ノ火室ニ在ル繫桿ニハ其ノ頂上ニ在ルモノヲ除クノ外總テ其ノ毀損ヲ外部ヨリ發見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト

七 汽笛ハ少クトモ一箇ヲ備フルコト

八 前後ニ排障器ヲ附スルコト

九 煙筒及灰箱ヨリ火粉ノ放出ヲ防ク設備ヲ爲スコト

十 他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ、働輪及炭水車ノ車輪ニ働クヘキ手用制動機ヲ備フルコト

第四十四條 客車

客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均三平方呎ヨリ小ナルコトヲ得ス

窓硝子ノ面積ハ旅客定員一人ニ付六十平方吋ヨリ小ナルコトヲ得ス

客車内ニハ二箇以上ノ照燈裝置ヲ爲シ又車内ニ區分室アルトキハ各室ニ一箇以上ノ照燈裝置ヲ爲スコトヲ要ス

客車ノ側面ニ在ル戸ハ二箇ノ閉鎖器ヲ備ヘ又戸ヲ閉ルトキ手指ヲ傷ムルノ虞ナキ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第四十五條 緩急車

緩急車ニハ他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

附則

第四十六條

本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條

本規程施行前ノ工事ニ著手シ又ハ竣功シタル線路ニシテ第一章中左ニ掲クル條項ノ規定ニ依リ變更ヲ受クルモノハ本規程施行ノ日ヨリ本條ノ期間内ニ之ヲ改築スヘシ

一 第六條第十三條第十八條第一項第十九條第二十四條第一項及第二十五條第一項ニ付テハ

十五箇年以内

二 第二條第九條第五項第十七條第十八條第三項第六項乃至第八項及第二十八條ニ付テハ十箇年以内

三 第四條第十八條第二項第二十五條第二項及第三十二條ニ付テハ五箇年以内

四 第三條第五條第七條第八條第十一條第十二條第一項第十四條第十五條第十八條第四項第五項第二十條第二十四條第二項第二十五條第三項及第二十七條ニ付テハ三箇年以内

第四十八條

隧道若ハ橋梁カ第一條ノ規定ニ抵觸スルモ五十五呎(兩端ボギー中心間ノ距離ハ三十七呎トス)ノ全長ヲ有シ且第三十五條第一項ノ最大幅ヲ有スル車輛ノ通過ニ妨ケナキモノハ該隧道若ハ橋梁ノ大改築ノトキ迄之カ改築ヲ猶豫スルコトヲ得

第二條第二項及第九條第五項ノ規定ニ依リ變更ヲ受クル場合ニ於テ之カ爲隧道若ハ橋梁ノ改築ヲ要スルモノハ該隧道若ハ橋梁ノ大改築ノトキ迄又之カ爲隧道若ハ橋梁ノ新築ヲ要スルモノハ其ノ線路區間ノ大改築ノトキ迄之カ改築ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十九條

本規程施行前ノ工事ニ著手シ又ハ竣功シタル線路ニ在リテハ特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ第六條ニ規定スル十二呎ノ最小限ヲ十一呎迄減縮スルコトヲ得

第五十條

本規程施行ノ際現存シ又ハ製造中ニ係ル車輛ニシテ第二章中左ニ掲クル條項ノ規定ニ依リ變更ヲ受クルモノハ本規程施行ノ日ヨリ本條ノ期間内ニ之ヲ改造スヘシ

- 一 第二十七條第二項ニ付テハ十箇年以内
- 二 第三十五條第三項、第三十六條第二項、第三十八條第二項、第四十條、第四十一條、第四十二條第一項乃至第四項及第四十三條第一項、第二號、第三號、第六號、第十號ニ付テハ七箇年以内
- 三 第四十四條第四項ニ付テハ五箇年以内

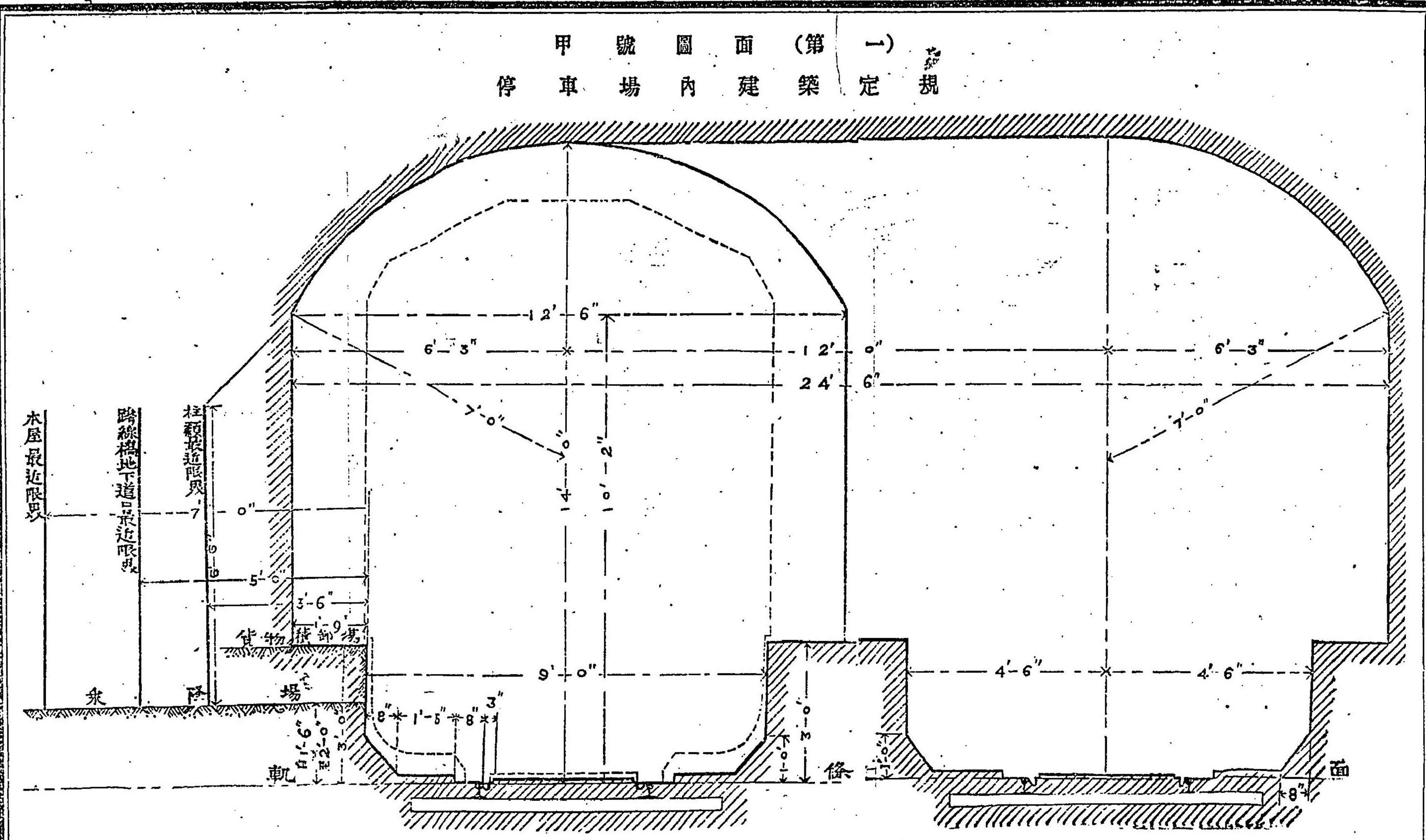
第五十一條
 私設鐵道ニ於テ第四十七條及第五十條ノ規定ニ依リ改築改造ヲ要スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ左ニ掲クル期間内ニ其ノ設計及期間ヲ定メ之カ認可ヲ申請スヘシ

- 一 改築改造ノ期間十五箇年以内及十箇年以内ノモノハ三箇年以内
- 二 同七箇年以内及五箇年以内ノモノハ二箇年以内
- 三 同三箇年以内ノモノハ一箇年以内

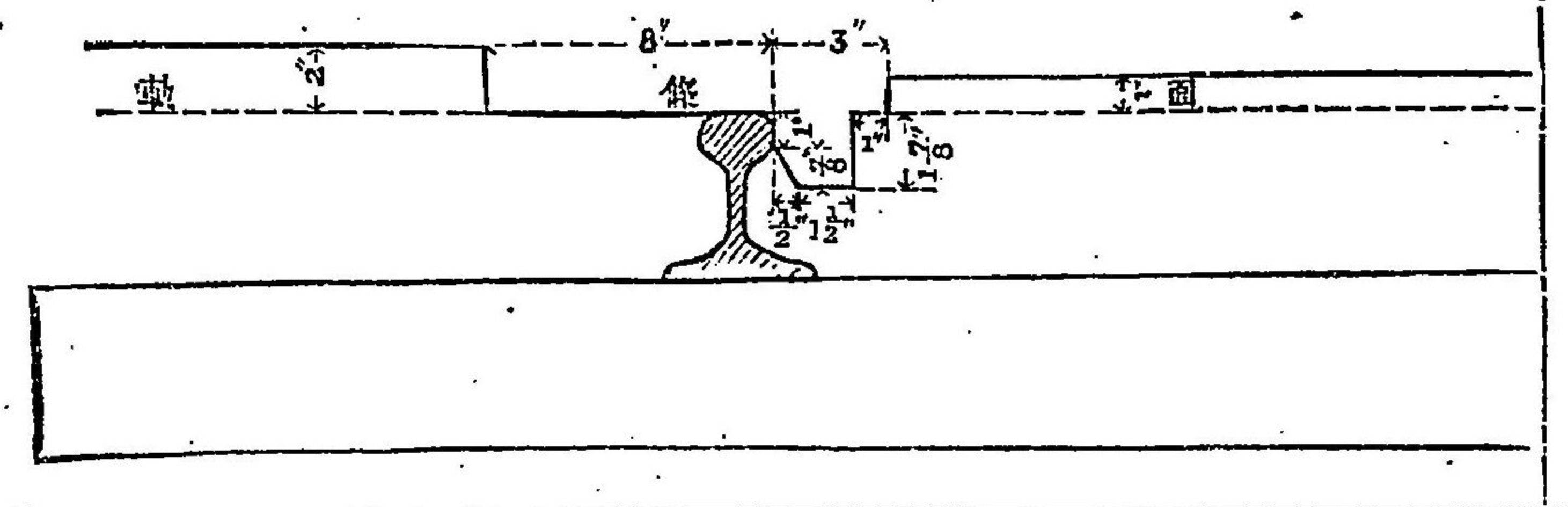
第五十二條
 第四十七條、第四十八條、第五十條及第五十一條ノ規定ハ保安上必要ノ場合若ハ期限前改築改造ヲ爲ス場合ニ於テ本規程ニ依ル施工ヲ命スルコトヲ妨ケス

第五十三條
 特殊ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依リ難キモノ及局部運送ノ用ニ供スル鐵道ニシテ本規程ニ依ルノ必要ナキモノニ在リテハ本規程ニ依ラサル工事方法ヲ特許スルコトアルヘシ

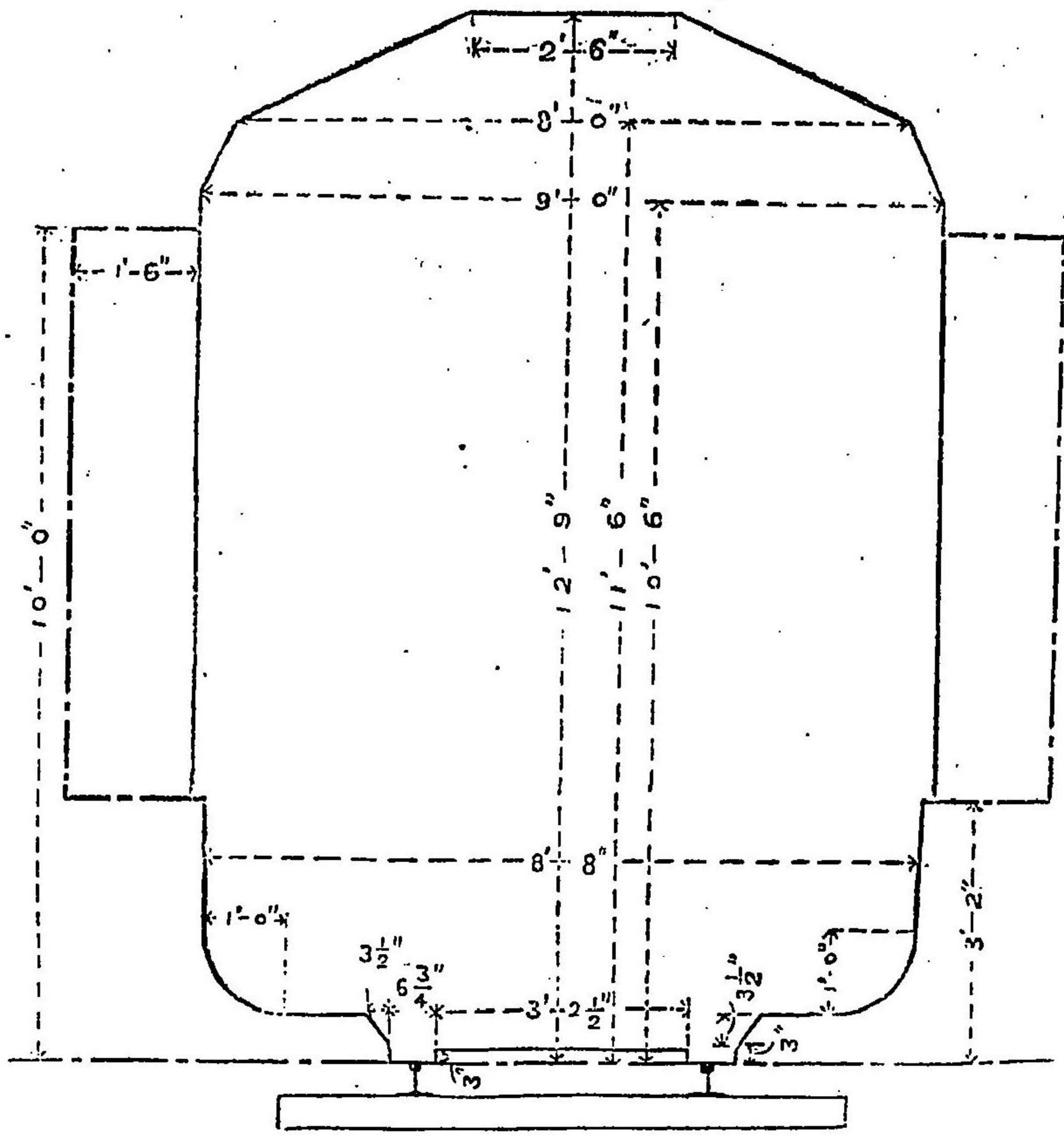
甲 號 圖 面 (第 一)
 停 車 場 內 建 築 定 規



甲 號 圖 面 (第 一)
 停 車 場 內 建 築 定 規 (續)



乙號圖面
車輛定規



甲號圖面 (第二)
停車場外建築定規

